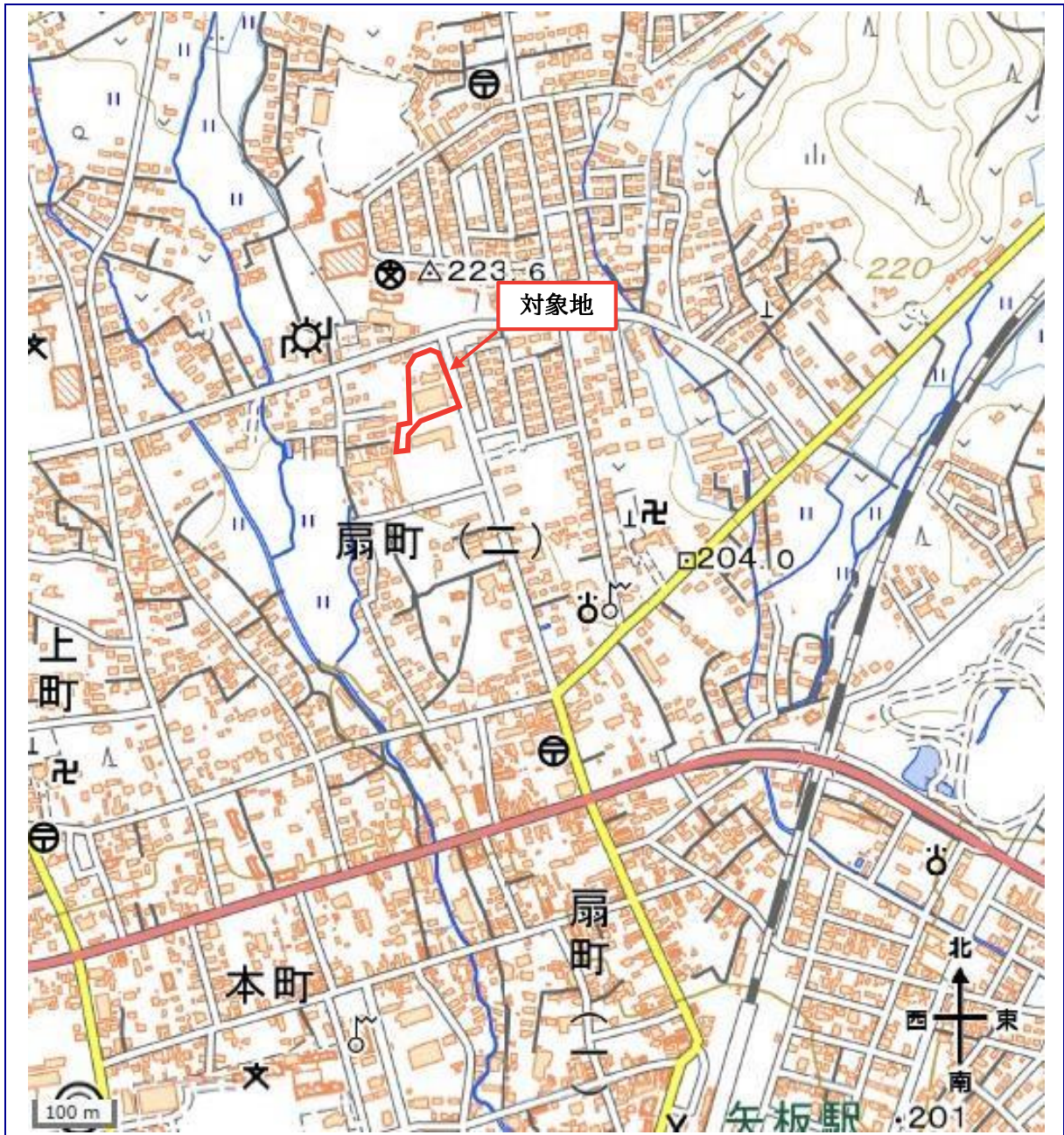


整理番号	令-5-3	指定年月日・指定番号	令和5(2023)年5月30日 形-28	所在地	矢板市扇町二丁目1519番23の一部	
調製・訂正年月日	令和5(2023)年5月30日(区域の指定及び指定台帳の調製) 令和5(2023)年11月21日(区域の指定の解除及び指定台帳の消除並びに解除台帳の調製)					
形質変更時要届出区域の概況	工場跡地			面積	200 m ²	
法第14条第3項の規定に基づき指定された形質変更時要届出区域にあっては、その旨	-					
最大形質変更深さより1メートルを超える深さの位置について試料採取等の対象としなかった土壤汚染状況調査の結果により指定された形質変更時要届出区域にあっては、その旨、当該試料採取等の対象としなかった深さの位置及び特定有害物質の種類	-					
土壤汚染のおそれの把握等、試料採取等を行う区画の選定等又は試料採取等を省略した土壤汚染状況調査の結果により指定された形質変更時要届出区域にあっては、その旨及び当該省略の理由	-					
汚染の除去等の措置が講じられた形質変更時要届出区域にあっては、その旨及び当該汚染の除去等の措置	-					
第58条第5項第10号から第13号までに該当する区域にあっては、その旨	-					
形質変更時要届出区域内の土壤の汚染状態	報告受理年月日	指定に係る特定有害物質の種類		適合しない基準項目		指定調査機関の名称
	令和5(2023)年3月9日	シアン化合物		含有量基準・ <u>溶出量基準</u> ・第二溶出量基準		(株)フィールド・パートナーズ
				含有量基準・溶出量基準・第二溶出量基準		
				含有量基準・溶出量基準・第二溶出量基準		
				含有量基準・溶出量基準・第二溶出量基準		
土地の形質の変更の実施状況	届出(着手)時期	完了時期	土地の形質の変更の種類	実施者	土壤搬出	汚染土壤の処理方法
	令和5(2023)年6月5日届出 令和5(2023)年7月18日着手	令和5(2023)年8月4日	掘削除去	(株)フィールド・パートナーズ	有・無	分別等処理(異物除去) 浄化等処理(浄化(抽出-洗浄処理))
					有・無	
					有・無	
					有・無	

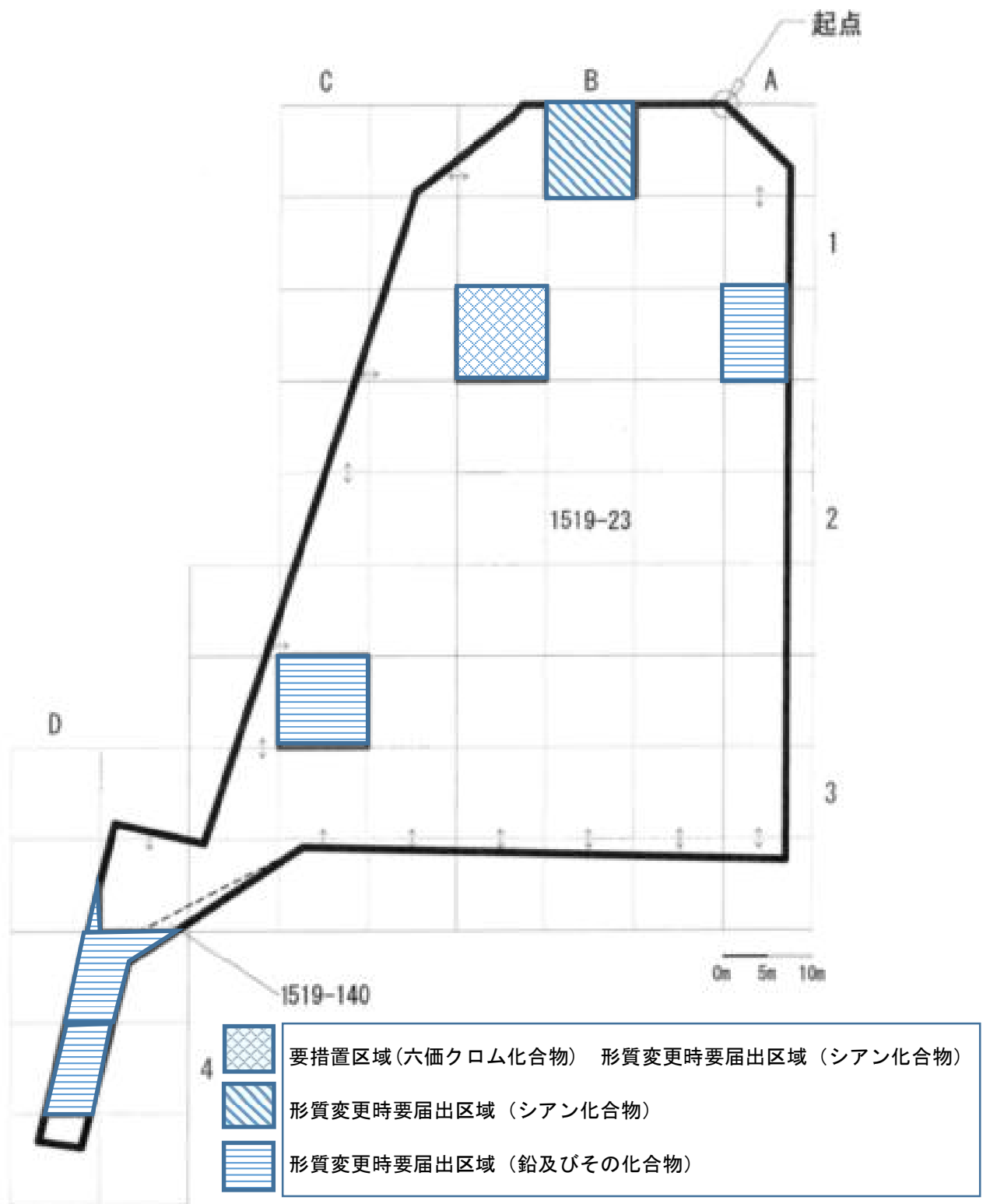
備考1 この用紙の大きさは、日本工業規格A4とすること。

2 「形質変更時要届出区域内の土壤の汚染状態」については、土壤その他の試料の採取を行った日、当該試料の測定の結果等を記載した書類を添付すること。

対象地位置図



出典：地理院地図
(<http://maps.gsi.go.jp/>)



B1-7		
深度	六価クロム化合物 (溶出量)	シアン化合物 (溶出量)
表層	0.005mg/L	0.005mg/L
1.0m	<	<
2.0m	<	<
3.0m	<	<
4.0m	<	<
5.0m	<	<
地下水	<	<

B1-2	
深度	シアン化合物 (溶出量)
表層	0.005mg/L
1.0m	<
2.0m	<
3.0m	<
4.0m	<
5.0m	<
5.5m	<
地下水	<

B2-5				
深度	クロロエチレン	1,1-ジクロロエチレン	1,2-ジクロロエチレン	トリクロロエチレン
表層	<	<	<	<
0.5m	<	<	<	0.005mg/L
1.0m	<	<	<	0.007mg/L
2.0m	<	<	<	<
3.0m	<	<	<	<
4.0m	<	<	<	<
4.8m	<	<	<	<
地下水	0.0012mg/L	<	0.007mg/L	<

B2-5	
深度	テトラクロロエチレン (土壌ガス)
表層	0.17μlppm

D4-3	
深度	鉛 (含有量)
表層	71mg/kg
1.0m	<
2.0m	<
3.0m	<
4.0m	<
5.0m	<
6.0m	<
6.2m	<

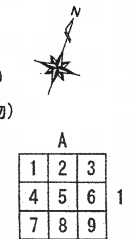
D4-5	
深度	鉛 (含有量)
表層	71mg/kg
旧表土 GL-0.3~ -0.8m	110mg/kg

A1-7	
深度	鉛 (含有量)
表層	180mg/kg
GL-1.9~ -2.4m	27mg/kg



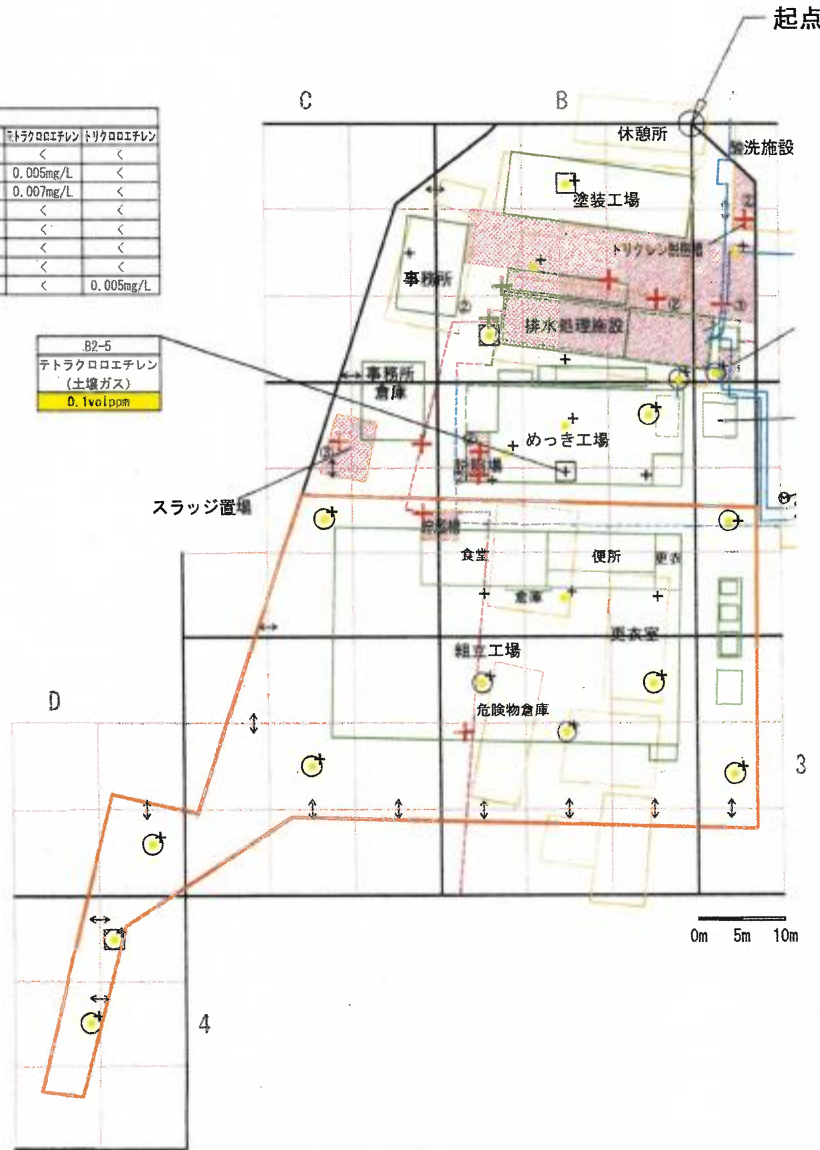
凡 例

- 【第一種特定有害物質】
 - + 土壌ガス調査地点: 26地点
- 【第二種特定有害物質 (Se, B以外)・有機りん】
 - 表層単地点分析: 20地点
 - ビット下・旧表土調査地点: 14地点
 - ボーリング調査地点: 4地点
- ▨ 六価クロム化合物溶出量基準不適合区画 (溶出量基準: 0.05mg/L以下)
- ▧ シアン化合物溶出量基準不適合区画 (溶出量基準: 検出されないこと)
- 鉛含有量基準不適合区画 (含有量基準: 150mg/kg以下)
- ↔ 統合区画 (130㎡以下)
- 調査対象地
- 既存建物
- 過去建物
- ピット (既存建物)
- ピット (過去建物)
- 架空配管
- 埋設配管
- 盛土想定範囲



B2-5					
深度	クロロエチレン	1,1-トリクロロエチレン	1,2-ジクロロエチレン	トリクロロエチレン	トリクロロエチレン
表層	<	<	<	<	<
0.5m	<	<	<	0.005mg/L	<
1.0m	<	<	<	0.007mg/L	<
2.0m	<	<	<	<	<
3.0m	<	<	<	<	<
4.0m	<	<	<	<	<
4.8m	<	<	<	<	<
地下水	0.0012mg/L	<	0.007mg/L	<	0.005mg/L

B2-5
テトラクロロエチレン
(土壌ガス)
0.1μg/m³

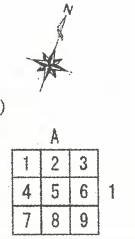


凡 例
【テトラクロロエチレン、トリクロロエチレン、
1,1,1-トリクロロエタン、1,2-ジクロロエチレン、
1,1-ジクロロエチレン、クロロエチレン、ベンゼン】

- + 土壌ガス調査地点：12地点
- 【土壌汚染のおそれの区分の分類】
- 土壌汚染が存在するおそれが比較的
多いと認められる土地
- 土壌汚染が存在するおそれが
少ないと認められる土地
- 土壌汚染が存在するおそれが比較的
多いと認められる埋設配管

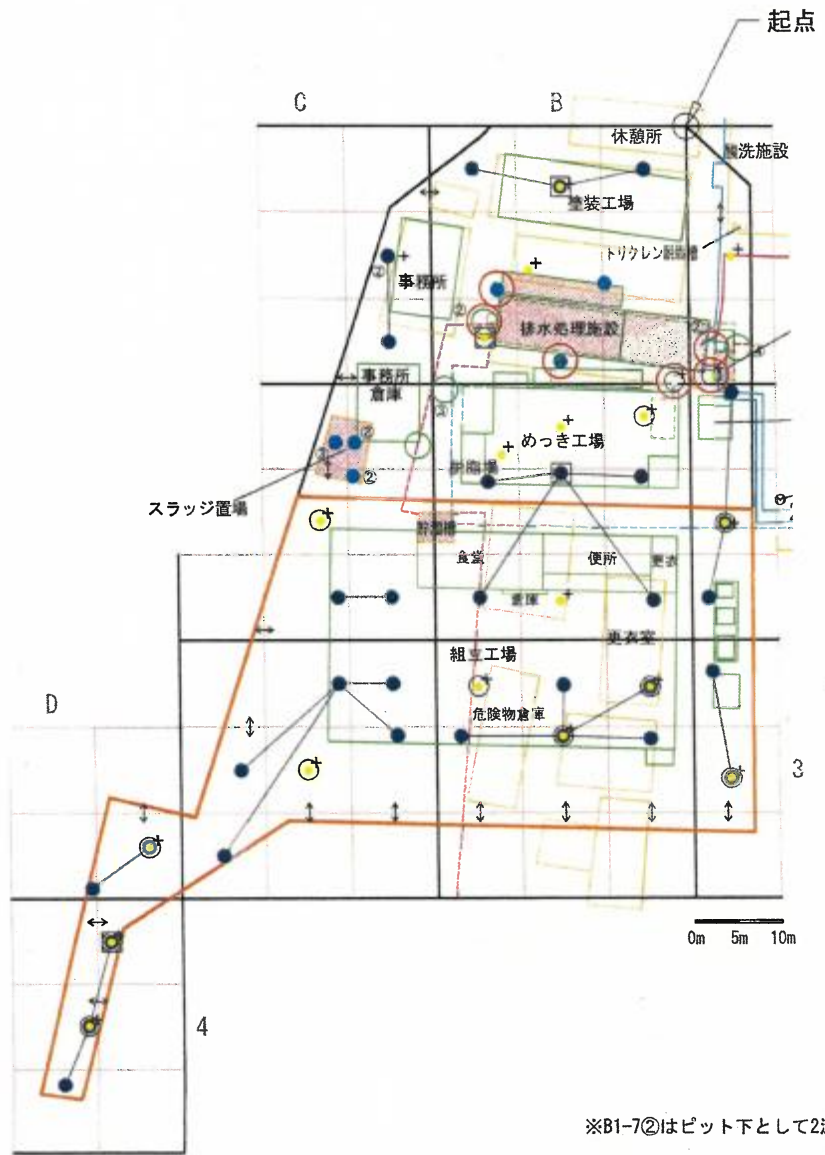
- 既往土壌調査地点
- 【第一種特定有害物質】
- + 土壌ガス調査地点：26地点
- 【第二種特定有害物質 (Se, B以外) ・有機りん】
- 表層単地点分析：20地点
 - ピット下・旧表土調査地点：14地点
 - ボーリング調査地点：4地点

- ↔ 統合区画 (130㎡以下)
- 調査対象地
- 既存建物
- 過去建物
- ピット (既存建物)
- ピット (過去建物)
- 架空配管
- 埋設配管
- 盛土想定範囲



【敷地境界、建物・設備形状の根拠資料】

Ver. 1.0 敷地形状は地積測量図、建物形状は現地測量に基づいた。



凡 例

【カドミウム、油分】
表層土壌調査地点

- 単地点分析：6地点
- ⊕ 5地点均等混合法：10エリア (32地点)
- 配管下地点：4地点
- (red) ピット下地点：6地点

【土壌汚染のおそれの区分の分類】

- 土壌汚染が存在するおそれが比較的多いと認められる土地
- 土壌汚染が存在するおそれが少ないと認められる土地
- 土壌汚染が存在するおそれが比較的多いと認められる架空配管
- - 土壌汚染が存在するおそれが比較的多いと認められる埋設配管

既往土壌調査地点

【第一種特定有害物質】

- ⊕ 土壌ガス調査地点：26地点

【第二種特定有害物質 (Se, B以外) ・有機りん】

- 表層単地点分析：20地点
- (red) ピット下・旧表土調査地点：14地点
- ボーリング調査地点：4地点

↔ 統合区画 (130㎡以下)

- 調査対象地
- 既存建物
- 過去建物
- (red) ピット (既存建物)
- (red) ピット (過去建物)
- 架空配管
- - 埋設配管
- ▭ (orange) 盛土想定範囲



A		
1	2	3
4	5	6
7	8	9

※B1-7②はピット下として2深度調査

【敷地境界、建物・設備形状の根拠資料】

Ver. 1.0 敷地形状は地積測量図、建物形状は現地測量に基づいた。

株式会社フィールド・パートナーズ

プロジェクト名

栃木県矢板市扇町2丁目敷地における土壌汚染状況調査

スケール

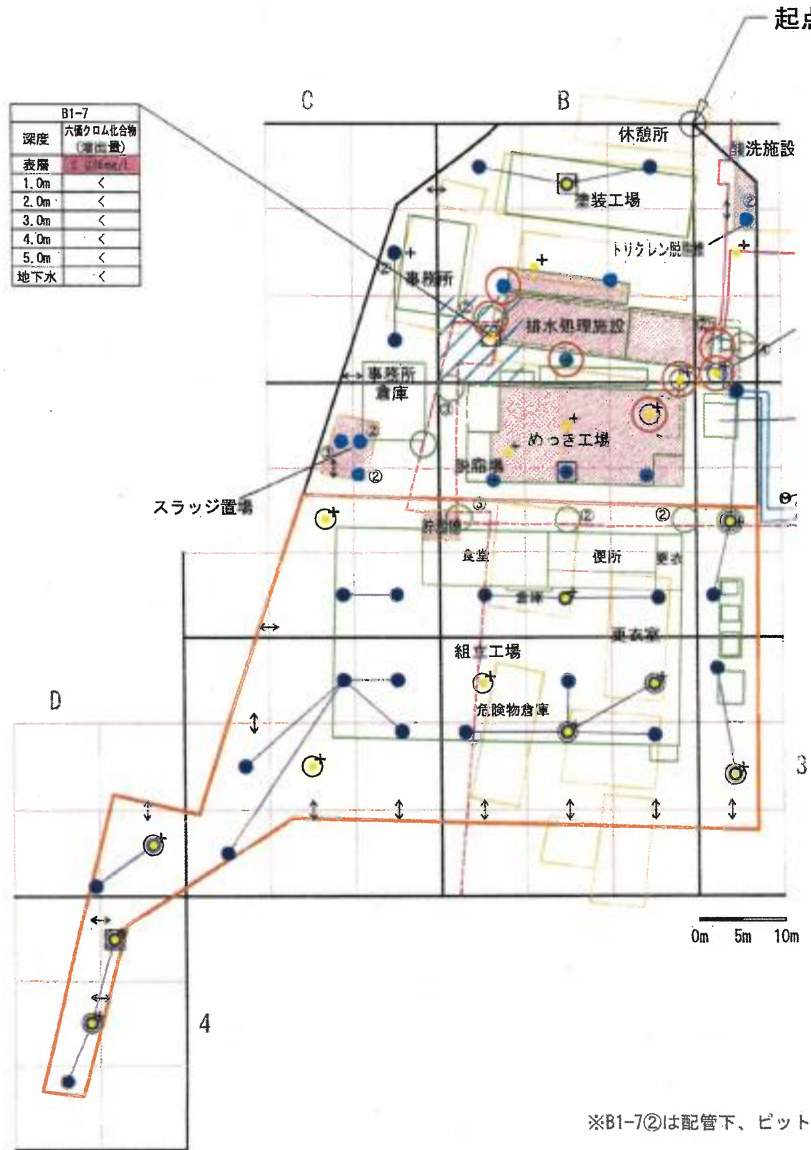
1/800 (A4)

タイトル

表層調査地点図 (カドミウム、油分)

巻末図-3

B1-7	
深度	六価クロム化合物 (溶出量)
表層	0.05mg/L
1.0m	<
2.0m	<
3.0m	<
4.0m	<
5.0m	<
地下水	<



※B1-7②は配管下、ピット下として、B2-1③は配管下として2深度調査

凡 例

【六価クロム、油分】
表層土壌調査地点

- 単地点分析：10地点
- ⊕ 5地点均等混合法：10エリア (30地点)
- 配管下地点：8地点
- ① ピット下地点：7地点

【土壌汚染のおそれの区分の分類】

- 土壌汚染が存在するおそれが比較的多いと認められる土地
- 土壌汚染が存在するおそれが少ないと認められる土地
- 土壌汚染が存在するおそれが比較的多いと認められる架空配管
- - 土壌汚染が存在するおそれが比較的多いと認められる埋設配管

既往土壌調査地点

【第一種特定有害物質】

- ⊕ 土壌ガス調査地点：26地点

【第二種特定有害物質 (Se, B以外) ・有機りん】

- 表層単地点分析：20地点
- ① ピット下・旧表土調査地点：14地点
- ボーリング調査地点：4地点

▨ 六価クロム化合物溶出量基準不適合区画
(溶出量基準：0.05mg/L以下)

- ↔ 統合区画 (130㎡以下)
- 調査対象地
- 既存建物
- 過去建物
- ① ピット (既存建物)
- ② ピット (過去建物)
- 架空配管
- - 埋設配管
- ▭ 盛土想定範囲



A		
1	2	3
4	5	6
7	8	9

【敷地境界、建物・設備形状の根拠資料】

Ver. 1.0 敷地形状は地積測量図、建物形状は現地測量に基づいた。

株式会社フィールド・パートナーズ

プロジェクト名

栃木県矢板市扇町2丁目敷地における土壌汚染状況調査

スケール

1/800 (A4)

タイトル

表層調査地点図 (六価クロム、油分)

巻末

図-3

B1-2	
深度	シアン化合物 (清水量)
表層	0.2mg/L
1.0m	<
2.0m	<
3.0m	<
4.0m	<
5.0m	<
5.5m	<
地下水	<

B1-7	
深度	シアン化合物 (溶出量)
表層	0.2mg/L
1.0m	<
2.0m	<
3.0m	<
4.0m	<
5.0m	<
地下水	<



※B1-7②は配管下、ピット下として、B2-1③は配管下として2深度調査

凡 例

【シアン、油分】

表層土壌調査地点

- 単地点分析：11地点
- ⊕ 5地点均等混合法：10エリア (29地点)
- 配管下地点：8地点
- ① ピット下地点：7地点

【土壌汚染のおそれの区分の分類】

- 土壌汚染が存在するおそれが比較的多いと認められる土地
- 土壌汚染が存在するおそれが少ないと認められる土地
- 土壌汚染が存在するおそれが比較的多いと認められる架空配管
- - - 土壌汚染が存在するおそれが比較的多いと認められる埋設配管

既往土壌調査地点

【第一種特定有害物質】

- ⊕ 土壌ガス調査地点：26地点

【第二種特定有害物質 (Se, B以外) ・有機りん】

- 表層単地点分析：20地点
- ① ピット下・旧表土調査地点：14地点
- ② ボーリング調査地点：4地点

シアン化合物溶出量基準不適合区画 (溶出量基準：検出されないこと)

↔ 統合区画 (130㎡以下)

□ 調査対象地

■ 既存建物

■ 過去建物

■ ① ピット (既存建物)

■ ② ピット (過去建物)

■ 盛土想定範囲

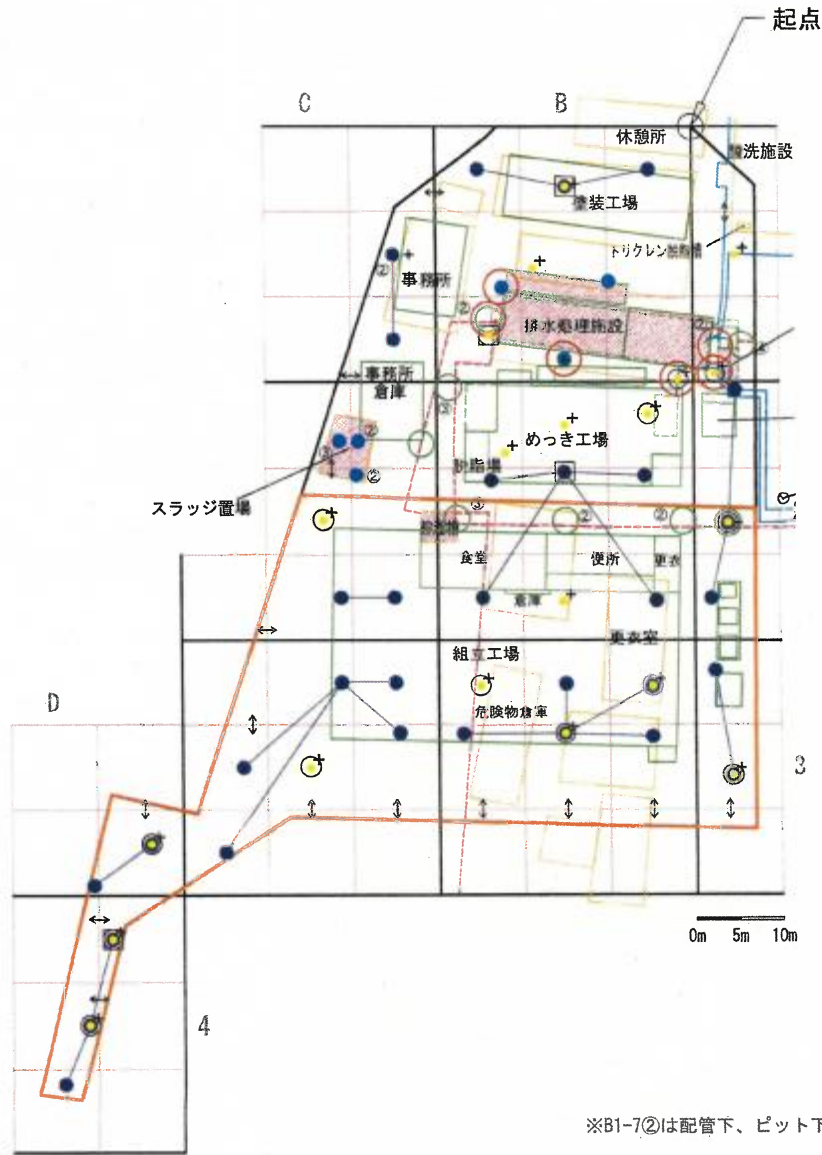


A		
1	2	3
4	5	6
7	8	9

【敷地境界、建物・設備形状の根拠資料】	
Ver. 1.0	敷地形状は地積測量図、建物形状は現地測量に基づいた。

株式会社フィールド・パートナーズ	
------------------	--

プロジェクト名	栃木県矢板市扇町2丁目敷地における土壌汚染状況調査		
スケール	1/800 (A4)	タイトル	表層調査地点図 (シアン、油分)



※B1-7②は配管下、ピット下として、B2-1③は配管下として2深度調査

- 凡 例
- 【水銀、砒素、ふっ素、有機りん、油分】
表層土壌調査地点
- 単地点分析：6地点
 - ⊕ 5地点均等混合法：10エリア (32地点)
 - 配管下地点：8地点
 - ① ピット下地点：6地点
- 【土壌汚染のおそれの区分の分類】
- 土壌汚染が存在するおそれが比較的多いと認められる土地
 - 土壌汚染が存在するおそれが少ないと認められる土地
- 土壌汚染が存在するおそれが比較的多いと認められる埋設配管
- 既往土壌調査地点
- 【第一種特定有害物質】
- ⊕ 土壌ガス調査地点：26地点
- 【第二種特定有害物質 (Se, B以外) ・有機りん】
- 表層単地点分析：20地点
 - ① ピット下・旧表土調査地点：14地点
 - ② ボーリング調査地点：4地点
- ↔ 統合区画 (130㎡以下)
- 調査対象地
 - 既存建物
 - 過去建物
 - ① ピット (既存建物)
 - ② ピット (過去建物)
 - 架空配管
 - 埋設配管
 - 盛土想定範囲
- | | | |
|---|---|---|
| A | | |
| 1 | 2 | 3 |
| 4 | 5 | 6 |
| 7 | 8 | 9 |

【敷地境界、建物・設備形状の根拠資料】	
Ver. 1.0	敷地形状は地積測量図、建物形状は現地測量に基づいた。

株式会社フィールド・パートナーズ		プロジェクト名	栃木県矢板市扇町2丁目敷地における土壌汚染状況調査	
スケール	1/800 (A4)	タイトル	表層調査地点図 (ふっ素、水銀、砒素、有機りん、油分)	巻末図-3

凡 例

- 【鉛、油分】
表層土壌調査地点
- 単地点分析：13地点
 - ⊕ 5地点均等混合法：9エリア (25地点)

- 【土壌汚染のおそれの区分の分類】
- 土壌汚染が存在するおそれが比較的多いと認められる土地
 - 土壌汚染が存在するおそれが少ないと認められる土地

- 既往土壌調査地点
- 【第一種特定有害物質】
- ⊕ 土壌ガス調査地点：26地点
- 【第二種特定有害物質 (Se, B以外)・有機りん】
- 表層単地点分析：20地点
 - ピット下・旧表土調査地点：14地点
 - ボーリング調査地点：4地点

- 鉛含有量基準不適合区画 (含有量基準：150mg/kg以下)
 - ↔ 統合区画 (130㎡以下)
 - 調査対象地
 - 既存建物
 - 過去建物
 - ピット (既存建物)
 - ピット (過去建物)
 - 架空配管
 - 埋設配管
 - 盛土想定範囲
- A

1	2	3
4	5	6
7	8	9

D4-3	
深度	鉛 (含有量)
表層	30mg/kg
1.0m	<
2.0m	<
3.0m	<
4.0m	<
5.0m	<
6.0m	<
6.2m	<

D4-5	
深度	鉛 (含有量)
表層	780mg/kg
旧表土	
GL-0.3~	
-0.8m	110mg/kg

A1-7	
深度	鉛 (含有量)
表層	27mg/kg
GL-1.0~	
-2.4m	



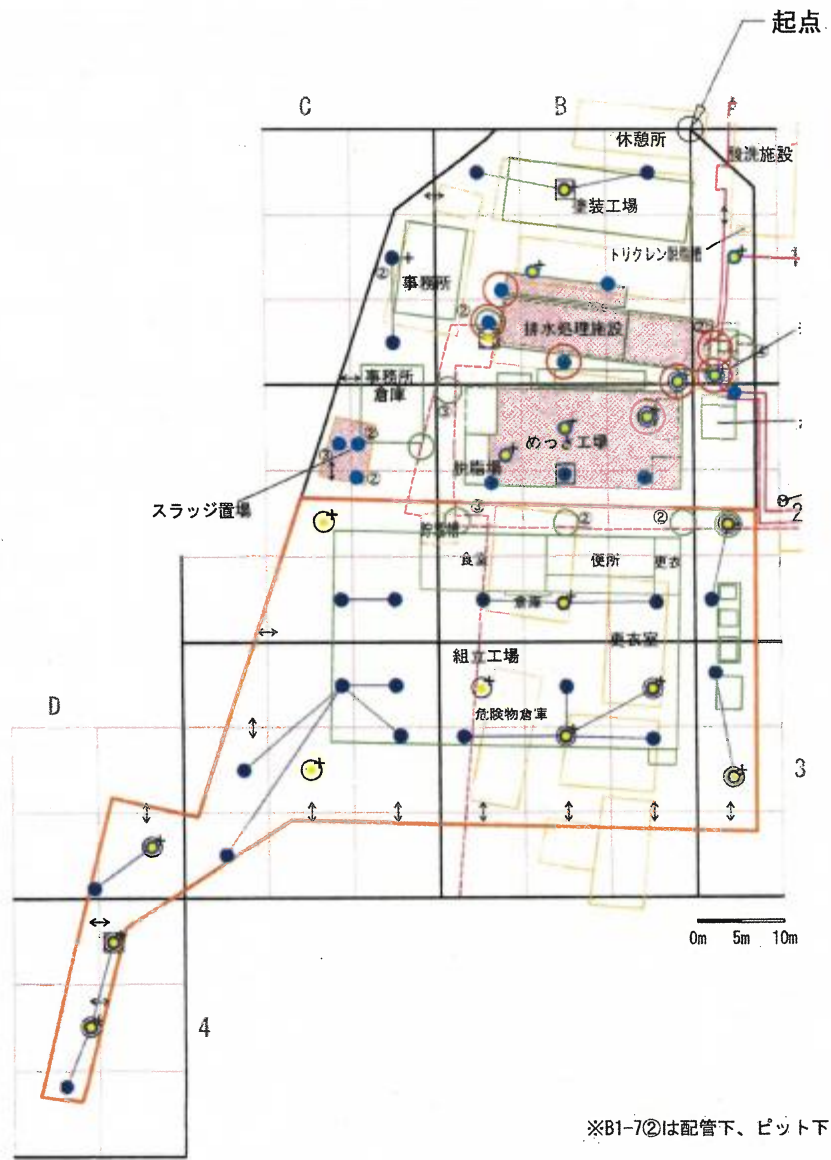
【敷地境界、建物・設備形状の根拠資料】

Ver. 1.0 敷地形状は地積測量図、建物形状は現地測量に基づいた。

株式会社フィールド・パートナーズ

プロジェクト名 栃木県矢板市扇町2丁目敷地における土壌汚染状況調査

スケール 1/800 (A4) タイトル 表層調査地点図 (鉛、油分) 巻末図-3



※B1-7②は配管下、ピット下として、B2-1③は配管下として2深度調査

凡 例

【ほう素、油分】
表層土壌調査地点

- 単地点分析：18地点
- ⊕ 5地点均等混合法：10エリア (29地点)
- 配管下地点：8地点
- ① ピット下地点：7地点

【土壌汚染のおそれの区分の分類】

- 土壌汚染が存在するおそれが比較的多いと認められる土地
- 土壌汚染が存在するおそれが少ないと認められる土地

— 土壌汚染が存在するおそれが比較的多いと認められる架空配管
- - - 土壌汚染が存在するおそれが比較的多いと認められる埋設配管

既往土壌調査地点

【第一種特定有害物質】
+ 土壌ガス調査地点：26地点

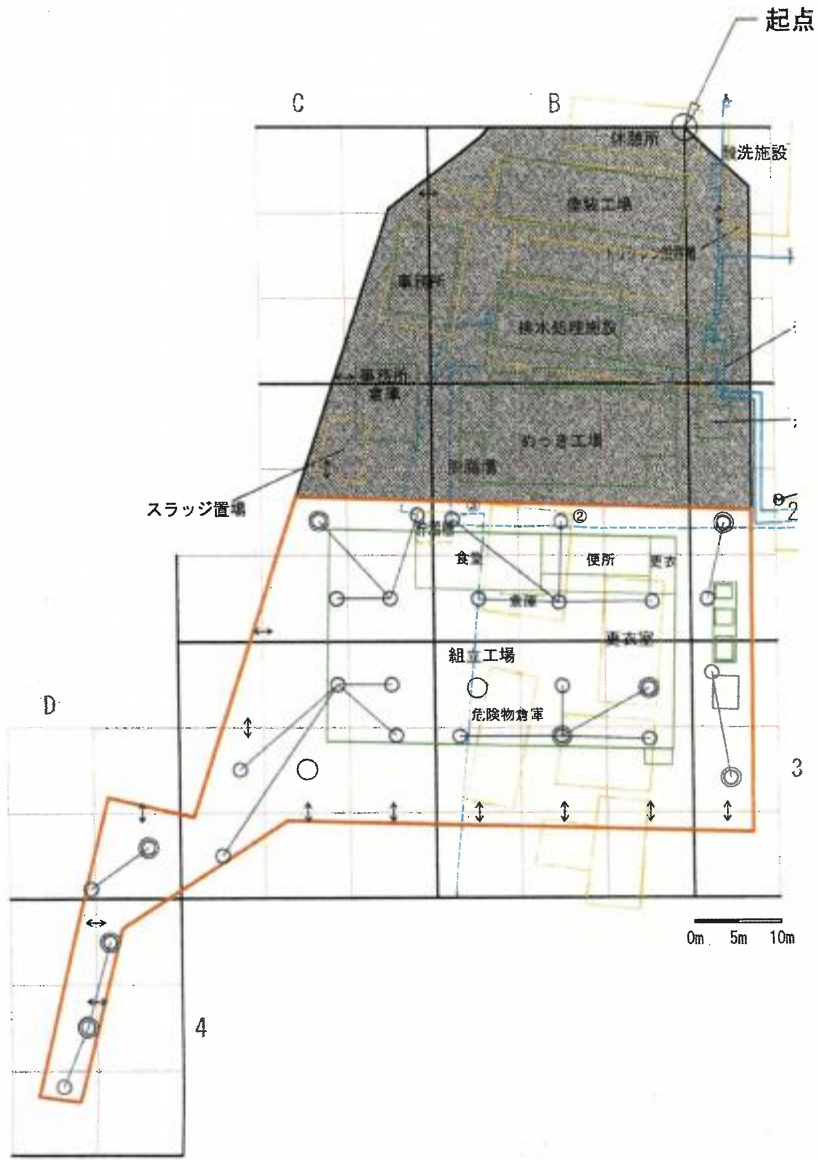
【第二種特定有害物質 (Se, B以外) ・有機りん】

- 表層単地点分析：20地点
- ① ピット下・旧表土調査地点：14地点
- ② ボーリング調査地点：4地点

↔ 統合区画 (130㎡以下)
 □ 調査対象地
 ■ 既存建物
 ■ 過去建物
 □ ① ピット (既存建物)
 □ ② ピット (過去建物)

盛土想定範囲

A		
1	2	3
4	5	6
7	8	9



凡 例

【旧表土_鉛、油分】

5地点均等混合法：8エリア
(28地点)

【土壤汚染のおそれの区分の分類】

□ 土壤汚染が存在するおそれが少ないと認められる土地
□ 土壤汚染が存在するおそれがないと認められる土地

既往土壤調査地点

【第二種特定有害物質 (Se, B以外) ・有機りん】

○ 旧表土調査地点：10地点

↔ 統合区画 (130㎡以下)

□ 調査対象地

□ 既存建物

□ 過去建物

□ ピット (既存建物)

□ ピット (過去建物)

— 架空配管

— 埋設配管

▭ 盛土想定範囲

▨ 盛土想定範囲外



	A		
	1	2	3
	4	5	6
	7	8	9

【敷地境界、建物・設備形状の根拠資料】

Ver. 1.0 敷地形状は地積測量図、建物形状は現地測量に基づいた。

株式会社フィールド・パートナーズ

プロジェクト名

栃木県矢板市扇町2丁目敷地における土壤汚染状況調査

スケール

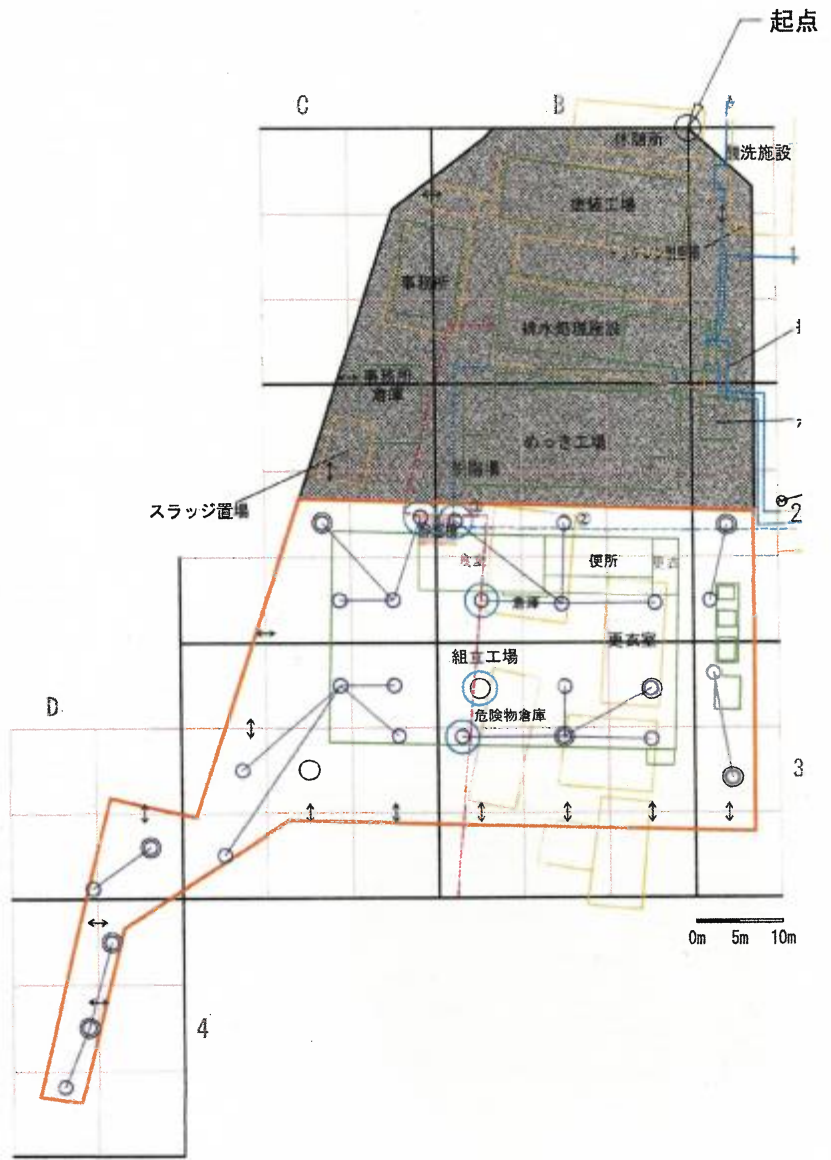
1/800 (A4)

タイトル

表層調査地点図 (旧表土_鉛、油分)

図番

巻末図-3



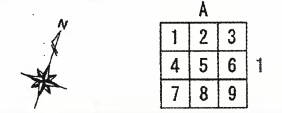
凡 例

- 【旧表土_鉛以外、油分】
- 5地点均等混合法：8エリア (28地点)
 - 旧表土配管下地点：5地点

- 【土壌汚染のおそれの区分の分類】
- 土壌汚染が存在するおそれが少ないと認められる土地
 - 土壌汚染が存在するおそれがないと認められる土地
 - 土壌汚染が存在するおそれが比較的多いと認められる埋設配管

- 既往土壌調査地点
- 【第二種特定有害物質 (Se, B以外)・有機りん】
- 旧表土調査地点：10地点

- 統合区画 (130㎡以下)
- 調査対象地
- 既存建物
- 過去建物
- ピット (既存建物)
- ピット (過去建物)
- 架空配管
- 埋設配管
- 盛土想定範囲
- 盛土想定範囲外



【敷地境界、建物・設備形状の根拠資料】

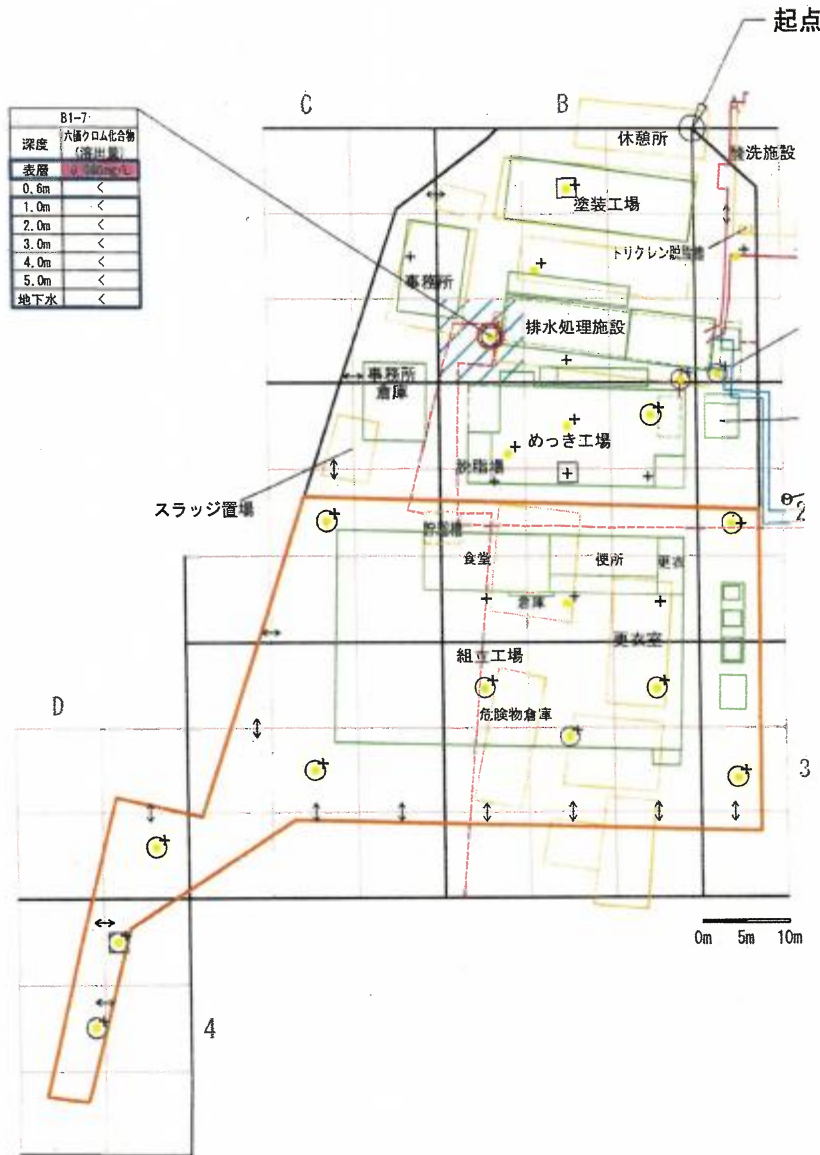
Ver. 1.0 敷地形状は地積測量図、建物形状は現地測量に基づいた。

株式会社フィールド・パートナーズ

プロジェクト名 栃木県矢板市扇町2丁目敷地における土壌汚染状況調査

スケール 1/800 (A4) タイトル 表層調査地点図 (旧表土_鉛以外、油分) 巻末図-3

B1-7	
深度	六価クロム化合物 (溶出量)
表層	<
0.6m	<
1.0m	<
2.0m	<
3.0m	<
4.0m	<
5.0m	<
地下水	<



凡 例
【六価クロム、油分】

○ ボーリング調査地点：1地点

【土壤汚染のおそれの区分の分類】

- 土壤汚染が存在するおそれが比較的多いと認められる架空配管
- - - 土壤汚染が存在するおそれが比較的多いと認められる埋設配管

既往土壤調査地点

- 【第一種特定有害物質】
- + 土壤ガス調査地点：26地点
- 【第二種特定有害物質 (Se, B以外) ・有機りん】
- 表層単地点分析：20地点
- ピット下・旧表土調査地点：14地点
- ボーリング調査地点：4地点

六価クロム化合物溶出量基準不適合区画
(溶出量基準:0.05mg/L以下)

↔ 統合区画 (130㎡以下)

- 調査対象地
- 既存建物
- 過去建物
- (点線) ピット (既存建物)
- (点線) ピット (過去建物)

- 架空配管
- - - 埋設配管
- 盛土想定範囲



A		
1	2	3
4	5	6
7	8	9

■ : 2018年既往調査結果

【敷地境界、建物・設備形状の根拠資料】
Ver. 1.0 敷地形状は地籍測量図、建物形状は現地測量に基づいた。

株式会社フィールド・パートナーズ

プロジェクト名 栃木県矢板市扇町2丁目敷地における土壤汚染状況調査
スケール 1/800 (A4) タイトル 深度範囲確認調査結果図 (六価クロム) 巻末図-8

凡 例

【シアン、油分】

○ ボーリング調査地点：2地点

【土壤汚染のおそれの区分の分類】

— 土壤汚染が存在するおそれが比較的多いと認められる架空配管

- - - 土壤汚染が存在するおそれが比較的多いと認められる埋設配管

既往土壤調査地点

【第一種特定有害物質】

+ 土壤ガス調査地点：26地点

【第二種特定有害物質 (Se, B以外) ・有機りん】

● 表層単地点分析：20地点

○ ビット下・旧表土調査地点：14地点

□ ボーリング調査地点：4地点

▨ シアン化合物溶出量基準不適合区画
(溶出量基準：検出されないこと)

↔ 統合区画 (130㎡以下)

□ 調査対象地

■ 既存建物

■ 過去建物

■ ピット (既存建物)

■ ピット (過去建物)



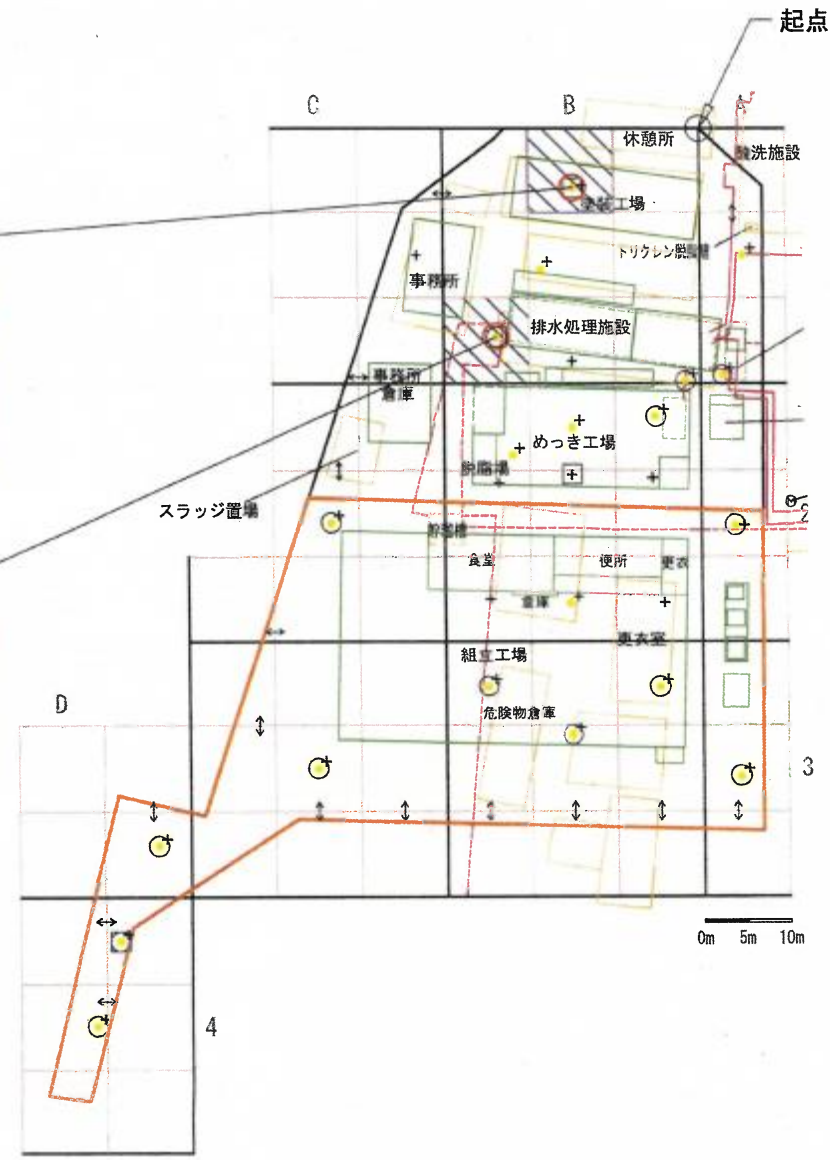
A		
1	2	3
4	5	6
7	8	9

■ 盛土想定範囲

□ : 2018年既往調査結果

B1-2	
深度	シアン化合物 (溶出量)
表層	○
0.6m	<
0.7m	<
1.0m	<
2.0m	<
3.0m	<
4.0m	<
5.0m	<
地下水	<

B1-7	
深度	シアン化合物 (溶出量)
表層	○
0.6m	<
1.0m	<
2.0m	<
3.0m	<
4.0m	<
5.0m	<
地下水	<



【敷地境界、建物・設備形状の根拠資料】
 Ver. 1.0 敷地形状は地積測量図、建物形状は現地測量に基づいた。

株式会社フィールド・パートナーズ

プロジェクト名 栃木県矢板市扇町2丁目敷地における土壤汚染状況調査
 スケール 1/800 (A4) タイトル 深度範囲確認調査結果図 (シアン) 巻末図-8

凡 例

【鉛】

○ ボーリング調査地点：5地点

既往土壤調査地点

【第一種特定有害物質】

+ 土壤ガス調査地点：26地点

【第二種特定有害物質 (Se, B以外) ・有機りん】

● 表層単地点分析：20地点

○ ピット下・旧表土調査地点：14地点

□ ボーリング調査地点：4地点

鉛含有量基準不適合区画
(含有量基準：150mg/kg以下)

↔ 統合区画 (130㎡以下)

調査対象地

既存建物

過去建物

ピット(既存建物)

ピット(過去建物)

架空配管

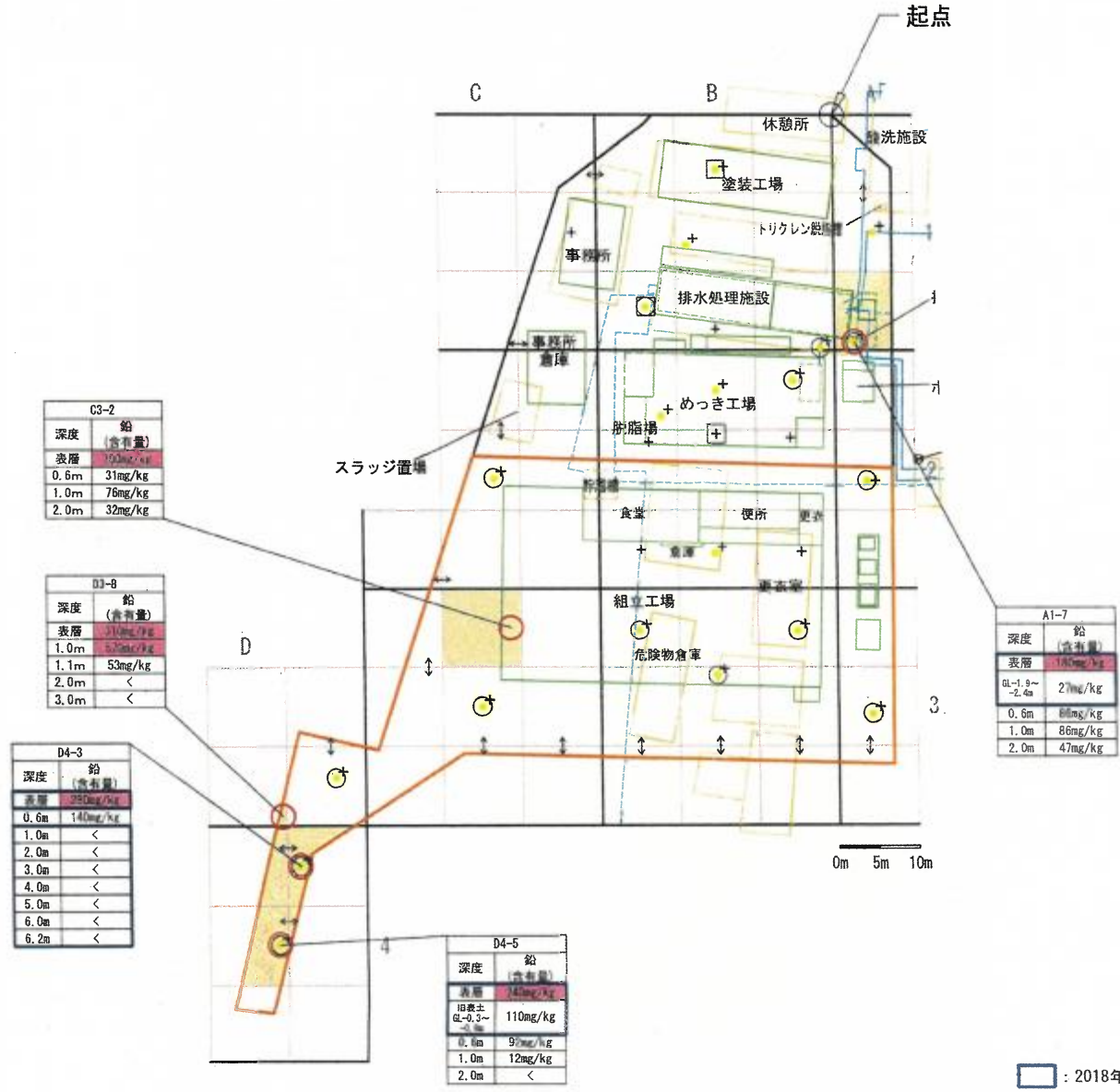
埋設配管

盛土想定範囲



A		
1	2	3
4	5	6
7	8	9

2018年既往調査結果



C3-2	
深度	鉛 (含有量)
表層	100mg/kg
0.6m	31mg/kg
1.0m	76mg/kg
2.0m	32mg/kg

D3-9	
深度	鉛 (含有量)
表層	310mg/kg
1.0m	53mg/kg
1.1m	53mg/kg
2.0m	<
3.0m	<

D4-3	
深度	鉛 (含有量)
表層	250mg/kg
0.6m	140mg/kg
1.0m	<
2.0m	<
3.0m	<
4.0m	<
5.0m	<
6.0m	<
6.2m	<

D4-5	
深度	鉛 (含有量)
表層	140mg/kg
旧表土 GL-0.3~	110mg/kg
0.6m	97mg/kg
1.0m	12mg/kg
2.0m	<

A1-7	
深度	鉛 (含有量)
表層	140mg/kg
GL-1.9~-2.4m	27mg/kg
0.6m	66mg/kg
1.0m	86mg/kg
2.0m	47mg/kg

【敷地境界、建物・設備形状の根拠資料】
Ver. 1.0 敷地形状は地種測量図、建物形状は現地測量に基づいた。

株式会社フィールド・パートナーズ

プロジェクト名 栃木県矢板市扇町2丁目敷地における土壤汚染状況調査

スケール 1/800 (A4)

タイトル 深度範囲確認調査結果図 (鉛)

巻末図-8

【旧表土_鉛】

○ ボーリング調査地点：1地点

既往土壤調査地点

【第二種特定有害物質 (Se, B以外) ・有機りん】

○ 旧表土調査地点：10地点

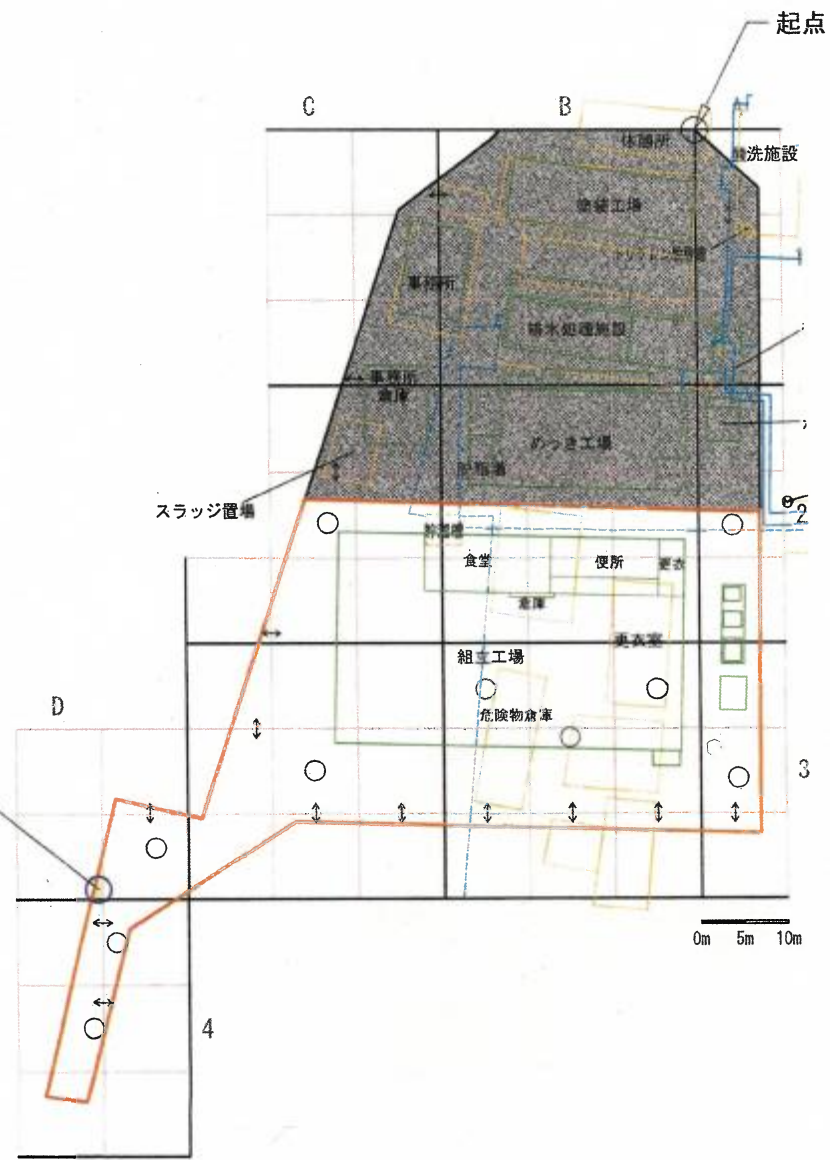
鉛含有量基準不適合区画
(含有量基準：150mg/kg以下)

- ↔ 統合区画 (130㎡以下)
- 調査対象地
- 既存建物
- 過去建物
- ピット (既存建物)
- ピット (過去建物)
- 架空配管
- 埋設配管
- 盛土想定範囲
- 盛土想定範囲外



A		
1	2	3
4	5	6
7	8	9

D3-8	
深度	鉛 (含有量)
旧表土 0L-0.3~ -0.5m	20mg/kg
1.0m	50mg/kg
1.1m	50mg/kg
2.0m	<
3.0m	<



【敷地境界、建物・設備形状の根拠資料】	
Ver. 1.0	敷地形状は地積測量図、建物形状は現地測量に基づいた。

株式会社フィールド・パートナーズ

プロジェクト名	栃木県矢板市扇町2丁目敷地における土壤汚染状況調査		
スケール	1/800 (A4)	タイトル	深度範囲確認調査結果図 (旧表土_鉛)
図番			巻末図-8



濃度計量証明書

証明書番号 : QA181107001DA

発行年月日 : 平成31年1月17日

株式会社 土壌環境リサーチーズ
 〒266-0031 千葉県千葉市緑区ゆめ野五丁目4番地3
 TEL:043-300-3318 FAX:043-300-3312
 計量証明事業登録番号 千葉県知事登録第678号
 計量管理者 (環境計量士)

株式会社フィールド・パートナーズ 様

件名 : 千葉県矢板市厚町2丁目敷地における土壌汚染状況調査 (部分調査)

氏名 :

御依頼のありました、試料についての計量結果を次の通り証明します。

測定対象 : 千葉県矢板市厚町2丁目1519番23

試料名称	B1-7	試料種別	土壌	
採取年月日及び時間	平成31年1月10日			
試料採取者	当事業所受取	受取年月日	平成31年1月12日	
[特記事項]				
計量の対象	計量結果	単位	計量方法	定値下限値
カドミウム及びその化合物	<0.001	mg/L	平成15年環境省告示第18号(JIS K 0102 55.4) ICP質量分析法(Cd換算)	0.001
六価クロム化合物	0.096	mg/L	平成15年環境省告示第18号(JIS K 0102 65.2.1) シリカ抽出法/分光光度法(CrVI換算)	0.005
シアン化合物	0.3	mg/L	平成15年環境省告示第18号(JIS K 0102 38.1.2及び38.3) pH2蒸留 4-ヒドロキシベンゼン-2-チオール分光光度法(CN換算)	0.1
水銀及びその化合物	<0.0005	mg/L	平成15年環境省告示第18号(昭和46年環告第59号付表1) 還元気化原子吸光法(Hg換算)	0.0005
鉛及びその化合物	<0.001	mg/L	平成15年環境省告示第18号(JIS K 0102 54.4) ICP質量分析法(Pb換算)	0.001
砒素及びその化合物	0.003	mg/L	平成15年環境省告示第18号(JIS K 0102 61.4) ICP質量分析法(As換算)	0.001
銅及びその化合物	0.57	mg/L	平成15年環境省告示第18号(JIS K 0102 34.4) 沈降分析法(F換算)	0.08
有機りん化合物	<0.1	mg/L	平成15年環境省告示第18号(昭和49年環告第64号付表1) n-As抽出法/分光光度法(FPD)法	0.1
カドミウム及びその化合物	3.0	mg/kg	平成15年環境省告示第19号付表2、3(1)及びJIS K 0102 55.4 1mol/L塩酸抽出 ICP質量分析法(Cd換算)	1.0
六価クロム化合物	<10	mg/kg	平成15年環境省告示第19号付表2、3(2)及びJIS K 0102 65.2.1 7列抽出法/分光光度法(CrVI換算)	10
シアン化合物	<5	mg/kg	平成15年環境省告示第19号付表2、3(3)及びJIS K 0102 38.3 pH4.5調整蒸留液抽出 4-ヒドロキシベンゼン-2-チオール分光光度法(CN換算)	5
水銀及びその化合物	<1.0	mg/kg	平成15年環境省告示第19号付表2、3(1)及び昭和46年環告第59号付表1 1mol/L塩酸抽出 還元気化原子吸光法(Hg換算)	1.0
鉛及びその化合物	35	mg/kg	平成15年環境省告示第19号付表2、3(1)及びJIS K 0102 54.4 1mol/L塩酸抽出 7-ヒドロキシ原子吸光法(Pb換算)	10
砒素及びその化合物	<10	mg/kg	平成15年環境省告示第19号付表2、3(1)及びJIS K 0102 61.4 1mol/L塩酸抽出 ICP質量分析法(As換算)	10
銅及びその化合物	<100	mg/kg	平成15年環境省告示第19号付表2、3(1)及びJIS K 0102 34.4 1mol/L塩酸抽出 沈降分析法(F換算)	100
	以下余白			

計量完了年月日 : 平成31年1月17日
 (単位注)
 mg/kg : 乾燥固形物当たりの分析値

この計量証明書は計量法第110条の2第1項に基づき作成されたものであり、この証明書の一部のみを複製して証明書として用いることはできません。



濃度計量証明書

1/1ページ
 証明番号 : QA181106S01DA

発行年月日 : 平成31年1月17日

株式会社フィールド・パートナーズ 様
 件名 : 栃木県矢板市黒町2丁目敷地における土壌汚染状況調査 (部分調査)

株式会社 土壌環境リサーチーズ
 〒266-0031 千葉県千葉市緑区おゆり野五丁目44番地3
 TEL:043-300-3318 FAX:043-300-3312
 計量証明事業登録番号 千葉県知事登録第678号
 計量管理者 (環境計量士)

氏名

御依頼のありました。試料についての計量結果を次の通り証明します。

測定対象 : 栃木県矢板市黒町2丁目1519番23

試料名称	B1-2	試料種別	土壌	
採取年月日及び時間	平成31年1月11日			
試料採取者	当事業所受取	受取年月日	平成31年1月12日	
【特記事項】				
計量の対象	計量結果	単位	計量方法	測定下限値
カドミウム及びその化合物	<0.001	mg/L	平成15年環境省告示第18号(JIS K 0102 55.4) ICP質量分析法(Cd換算)	0.001
六価クロム化合物	<0.005	mg/L	平成15年環境省告示第18号(JIS K 0102 65.2.1) ジェル透過電泳法(CrVI換算)	0.005
シアン化合物	0.2 /	mg/L	平成15年環境省告示第18号(JIS K 0102 38.1.2及び38.3) pH2.5調整 4-ヒドロキシベンゾ酸-CI ⁻ の吸光光度法(CN換算)	0.1
水銀及びその化合物	<0.0005	mg/L	平成15年環境省告示第18号(昭和46年告示第59号付表1) 還元酸化原子吸光法(Hg換算)	0.0005
鉛及びその化合物	0.001	mg/L	平成15年環境省告示第18号(JIS K 0102 54.4) ICP質量分析法(Pb換算)	0.001
砒素及びその化合物	0.002	mg/L	平成15年環境省告示第18号(JIS K 0102 61.4) ICP質量分析法(As換算)	0.001
ふっ素及びその化合物	0.36	mg/L	平成15年環境省告示第18号(JIS K 0102 34.4) 蒸気分析法(F換算)	0.08
有機りん化合物	<0.1	mg/L	平成15年環境省告示第18号(昭和49年告示第64号付表1) p-Ac抽出 4-ニトロフェノール(FPD)法	0.1
カドミウム及びその化合物	1.9	mg/kg	平成15年環境省告示第19号付表2、3(1)及びJIS K 0102 55.4 1mol/L塩酸抽出 ICP質量分析法(Cd換算)	1.0
六価クロム化合物	<10	mg/kg	平成15年環境省告示第19号付表2、3(2)及びJIS K 0102 65.2.1 Pb別標準液抽出 ジェル透過電泳法(CrVI換算)	10
シアン化合物	<5	mg/kg	平成15年環境省告示第19号付表2、3(3)及びJIS K 0102 38.3 pH4.5調整 4-ヒドロキシベンゾ酸-CI ⁻ の吸光光度法(CN換算)	5
水銀及びその化合物	<1.0	mg/kg	平成15年環境省告示第19号付表2、3(1)及び昭和46年告示第59号付表1 1mol/L塩酸抽出 還元酸化原子吸光法(Hg換算)	1.0
鉛及びその化合物	17	mg/kg	平成15年環境省告示第19号付表2、3(1)及びJIS K 0102 54.4 1mol/L塩酸抽出 α-線子吸光法(Pb換算)	10
砒素及びその化合物	<10	mg/kg	平成15年環境省告示第19号付表2、3(1)及びJIS K 0102 61.4 1mol/L塩酸抽出 ICP質量分析法(As換算)	10
ふっ素及びその化合物	<100	mg/kg	平成15年環境省告示第19号付表2、3(1)及びJIS K 0102 34.4 1mol/L塩酸抽出 蒸気分析法(F換算)	100
	以下余白			
【備考】				計量完了年月日 : 平成31年1月17日 (単位注) mg/kg : 乾燥固形物当たりの分析値

この計量証明書は計量法第110条の2第1項に基づくもので、この証明書の一部分のみを複製し証明書として用いることはできません。



濃度計量証明書

証明書番号 : QA181099101DA

発行年月日 : 平成31年1月17日

株式会社フィールド・パートナーズ 様

株式会社 土壌環境リサーチーズ
 〒266-0031 千葉県千葉市緑区おゆみ野五丁目44番地3

TEL:043-300-3318 FAX:043-300-3312

計量証明事業登録番号 千葉県知事登録第678号

計量管理者 (環境計量士)

氏名

御依頼のありました、試料についての計量結果を次の通り証明します。

測定対象 : 栃木県矢板市扇町二丁目1519番23

試料名称	A1-7		試料種別	土壌
採取年月日及び時間	平成31年1月10日			
試料採取者	当事業所採取		受取年月日	平成31年1月11日
【特記事項】				
計量の対象	計量結果	単位	計量方法	定規下限値
カドミウム及びその化合物	<0.001	mg/L	平成15年環境省告示第18号(JIS K 0102 55.4) ICP質量分析法(Cd換算)	0.001
六価クロム化合物	<0.005	mg/L	平成15年環境省告示第18号(JIS K 0102 65.2.1) 9-アゾピリジン吸光光度法(Cr-VI換算)	0.005
シアン化合物	<0.1	mg/L	平成15年環境省告示第18号(JIS K 0102 38.1.2及び38.3) H2S法 4-アゾピリジン吸光光度法(CN換算)	0.1
水銀及びその化合物	<0.0005	mg/L	平成15年環境省告示第18号(昭和46年環告第59号付表1) 還元メチル基吸光法(Hg換算)	0.0005
鉛及びその化合物	<0.001	mg/L	平成15年環境省告示第18号(JIS K 0102 54.4) ICP質量分析法(Pb換算)	0.001
砒素及びその化合物	<0.001	mg/L	平成15年環境省告示第18号(JIS K 0102 61.4) ICP質量分析法(As換算)	0.001
ふっ素及びその化合物	<0.08	mg/L	平成15年環境省告示第18号(JIS K 0102 34.4) 流れ分析法(F換算)	0.08
有機りん化合物	<0.1	mg/L	平成15年環境省告示第18号(昭和49年環告第64号付表1) 有機りん抽出 2,4,6-TMP法(FPD)法	0.1
カドミウム及びその化合物	2.0	mg/kg	平成15年環境省告示第19号付表2、3(1)及びJIS K 0102 55.4 1mol/L塩酸抽出 ICP質量分析法(Cd換算)	1.0
六価クロム化合物	<10	mg/kg	平成15年環境省告示第19号付表2、3(2)及びJIS K 0102 65.2.1 7-アゾピリジン抽出 9-アゾピリジン吸光光度法(Cr-VI換算)	10
シアン化合物	<5	mg/kg	平成15年環境省告示第19号付表2、3(3)及びJIS K 0102 38.3 pH4.5調整亜硫酸塩 4-アゾピリジン吸光光度法(CN換算)	5
水銀及びその化合物	<1.0	mg/kg	平成15年環境省告示第19号付表2、3(1)及び昭和46年環告第59号付表1 1mol/L塩酸抽出 還元メチル基吸光法(Hg換算)	1.0
鉛及びその化合物	180	mg/kg	平成15年環境省告示第19号付表2、3(1)及びJIS K 0102 54.4 1mol/L塩酸抽出 2,4,6-TMP法(Pb換算)	10
砒素及びその化合物	<10	mg/kg	平成15年環境省告示第19号付表2、3(1)及びJIS K 0102 61.4 1mol/L塩酸抽出 ICP質量分析法(As換算)	10
ふっ素及びその化合物	<100	mg/kg	平成15年環境省告示第19号付表2、3(1)及びJIS K 0102 34.4 1mol/L塩酸抽出 流れ分析法(F換算)	100
	以下余白			
				計量完了年月日 : 平成31年1月17日 (単位注) mg/kg : 乾燥固形物当たりの分析値
【備考】				

この計量証明書は計量法第110条の2第1項に基きます。この証明書の一部のみを複製し証明として用いることはできません。



濃度計量証明書

証明書番号 : QA181100501DA

1/1ページ

発行年月日 : 平成31年1月17日

株式会社フィールド・パートナーズ 様

件名 : 栃木県矢板市馬町2丁目敷地における土壌汚染状況調査 (部分調査)

株式会社 土壌環境リサーチズ

〒266-0031 千葉県千葉市緑区ゆめ野五丁目44番地3

TEL:043-300-3318 FAX:043-300-3312

計量証明事業登録番号 千葉県知事登録第678号

計量管理者 (環境計量士)

氏名

御依頼のありました、試料についての計量結果を次の通り証明します。

測定対象 : 栃木県矢板市馬町2丁目1519番23

試料名称	D4-3	試料種別	土壌	
採取年月日及び時間	平成31年1月10日			
試料採取者	当事業所受取	受取年月日	平成31年1月11日	
【特記事項】				
計量の対象	計量結果	単位	計量方法	定量的下限値
カドミウム及びその化合物	<0.001	mg/L	平成15年環境省告示第18号(JIS K 0102 55.4) ICP質量分析法(Cd換算)	0.001
六価クロム化合物	<0.005	mg/L	平成15年環境省告示第18号(JIS K 0102 65.2.1) ジェリニウムジト 吸光光度法(CrVI換算)	0.005
シアン化合物	<0.1	mg/L	平成15年環境省告示第18号(JIS K 0102 38.1,2及び38.3) pH2.5調整 4-ヒドロキシベンゼンチオシアン酸の吸光光度法(CN換算)	0.1
水銀及びその化合物	<0.0005	mg/L	平成15年環境省告示第18号(昭和46年環告第59号付表1) 還元メチル化原子吸光法(Hg換算)	0.0005
鉛及びその化合物	<0.001	mg/L	平成15年環境省告示第18号(JIS K 0102 54.4) ICP質量分析法(Pb換算)	0.001
砒素及びその化合物	<0.001	mg/L	平成15年環境省告示第18号(JIS K 0102 61.4) ICP質量分析法(As換算)	0.001
ふっ素及びその化合物	0.10	mg/L	平成15年環境省告示第18号(JIS K 0102 34.4) 流注分析法(F換算)	0.08
有機りん化合物	<0.1	mg/L	平成15年環境省告示第18号(昭和49年環告第64号付表1) n-ヘキシル抽出剤1添加法(FPD)法	0.1
カドミウム及びその化合物	4.7	mg/kg	平成15年環境省告示第19号付表2.3(1)及びJIS K 0102 55.4 1mol/L塩酸抽出 ICP質量分析法(Cd換算)	1.0
六価クロム化合物	<10	mg/kg	平成15年環境省告示第19号付表2.3(2)及びJIS K 0102 65.2.1 Pbの緩衝液抽出 ジェリニウムジト 吸光光度法(CrVI換算)	10
シアン化合物	<5	mg/kg	平成15年環境省告示第19号付表2.3(3)及びJIS K 0102 38.3 pH4.5調整亜硝酸添加剤 4-ヒドロキシベンゼンチオシアン酸の吸光光度法(CN換算)	5
水銀及びその化合物	<1.0	mg/kg	平成15年環境省告示第19号付表2.3(1)及び昭和46年環告第59号付表1 1mol/L塩酸抽出 還元メチル化原子吸光法(Hg換算)	1.0
鉛及びその化合物	280	mg/kg	平成15年環境省告示第19号付表2.3(1)及びJIS K 0102 54.1 1mol/L塩酸抽出 アルシ原子吸光法(Pb換算)	10
砒素及びその化合物	<10	mg/kg	平成15年環境省告示第19号付表2.3(1)及びJIS K 0102 61.4 1mol/L塩酸抽出 ICP質量分析法(As換算)	10
ふっ素及びその化合物	<100	mg/kg	平成15年環境省告示第19号付表2.3(1)及びJIS K 0102 34.4 1mol/L塩酸抽出 流注分析法(F換算)	100
	以下余白			
【備考】				計量完了年月日 : 平成31年1月17日 (単位注) mg/kg : 乾燥固形物当たりの分析値

この計量証明書は計量法第110条の2第1項に基づきます。この証明書の一部分のみを複製し証明書として用いることはできません。



濃度計量証明書

証明書番号 : QA22192600101DA

発行年月日 : 2022年12月19日

株式会社フィールド・パートナーズ 様
 件名 : 栃木県矢板市馬町2丁目敷地における土壌汚染状況調査

株式会社 土壤環境リサーチーズ
 〒266-0031 千葉県千葉市緑区おゆみ野五丁目44番地3
 TEL:043-300-3318 FAX:043-300-3312
 計量証明事業登録番号 千葉県知事登録第680号
 計量管理者 (環境計量士)
 氏名

御依頼のありました、試料についての計量結果を次の通り証明します。

測定対象 : 栃木県矢板市馬町2丁目1519-23 外1号

試料名称	C3-2	試料種別	土壌	
採取年月日及び時間	2022年12月13日			
試料採取者	当事業所受取	受取年月日	2022年12月14日	
【特記事項】				
計量の対象	計量結果	単位	計量方法	定量下限値
鉛及びその化合物	<0.001	mg/L	平成15年環境省告示第18号(JIS K 0102 54.4) ICP質量分析法(Pb換算)	0.001
銅及びその化合物	200	mg/kg	平成15年環境省告示第19号付表2、3(1)及びJIS K 0102 54.1 1mol/L硝酸抽出 炉原子吸光法(Pb換算)	10
	以下余白			
【備考】				
				計量完了年月日 : 2022年12月19日 (単位注) mg/kg : 乾燥固形物当たりの分析値

凡 例

- ボーリング調査地点
- 既往調査地点
- 【第一種特定有害物質】
- + 土壌ガス調査地点
- 【第二種特定有害物質 (Se, B以外) ・有機リン】
- 表層単地点分析
- ピット下・旧表土調査地点
- ボーリング調査地点

- 鉛含有量基準不適合区画 (含有量基準: 150mg/kg以下)
- 六価クロム化合物溶出量基準不適合区画 (溶出量基準: 0.05mg/L以下)
- シアン化合物溶出量基準不適合区画 (溶出量基準: 検出されないこと)

- 基準値超過
- < 定量下限値未満
- 掘削・撤出範囲

- ↔ 統合区画 (130㎡以下)
- 対象地
- 既存建物
- 過去建物
- ピット (既存建物)
- ピット (過去建物)
- 架空配管
- 埋設配管
- 盛土想定範囲



A		
1	2	3
4	5	6
7	8	9

B1-2

深度	KBM	シアン化合物 (溶出量)
表層	+9.770m	0.2mg/L
0.6m	+9.170m	0.1mg/L
0.7m	+9.070m	<
1.0m	+8.770m	<
2.0m	+7.770m	<
3.0m	+6.770m	<
4.0m	+5.770m	<
5.0m	+4.770m	<
5.5m	+3.770m	<
地下水	-	<

B1-7

深度	KBM	シアン化合物 (溶出量)	六価クロム化合物 (溶出量)
表層	+9.817m	0.3mg/L	0.08mg/L
0.6m	+9.217m	<	<
1.0m	+8.817m	<	<
2.0m	+7.817m	<	<
3.0m	+6.817m	<	<
4.0m	+5.817m	<	<
5.0m	+4.817m	<	<
地下水	-	<	<

G3-2

深度	KBM	鉛 (含有量)
表層	+9.848m	200mg/kg
0.6m	+9.248m	31mg/kg
1.0m	+8.848m	76mg/kg
2.0m	+7.848m	32mg/kg

D3-8

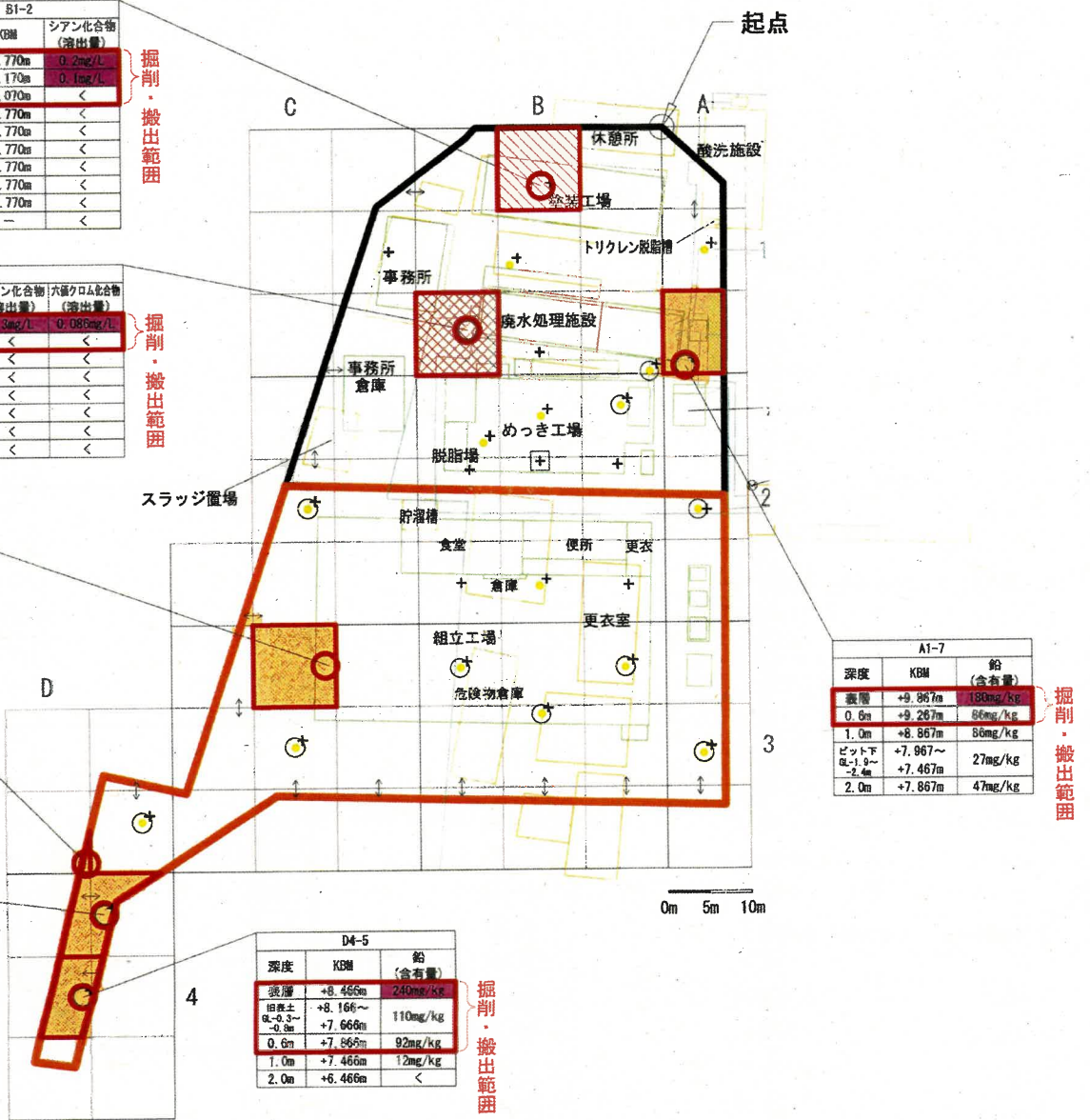
深度	KBM	鉛 (含有量)
表層	+8.671m	310mg/kg
1.0m	+7.671m	570mg/kg
1.1m	+7.571m	53mg/kg
2.0m	+6.671m	<
3.0m	+5.671m	<

D4-3

深度	KBM	鉛 (含有量)
表層	+8.542m	230mg/kg
0.5m	+7.942m	140mg/kg
1.0m	+7.542m	<
2.0m	+6.542m	<
3.0m	+5.542m	<
4.0m	+4.542m	<
5.0m	+3.542m	<
6.0m	+2.542m	<
6.2m	+2.342m	<

D4-5

深度	KBM	鉛 (含有量)
表層	+8.466m	240mg/kg
旧表土	+8.166~+8.533m	110mg/kg
0.6m	+7.666m	92mg/kg
1.0m	+7.466m	12mg/kg
2.0m	+6.466m	<



掘削・撤出範囲

掘削・撤出範囲

掘削・撤出範囲

掘削・撤出範囲

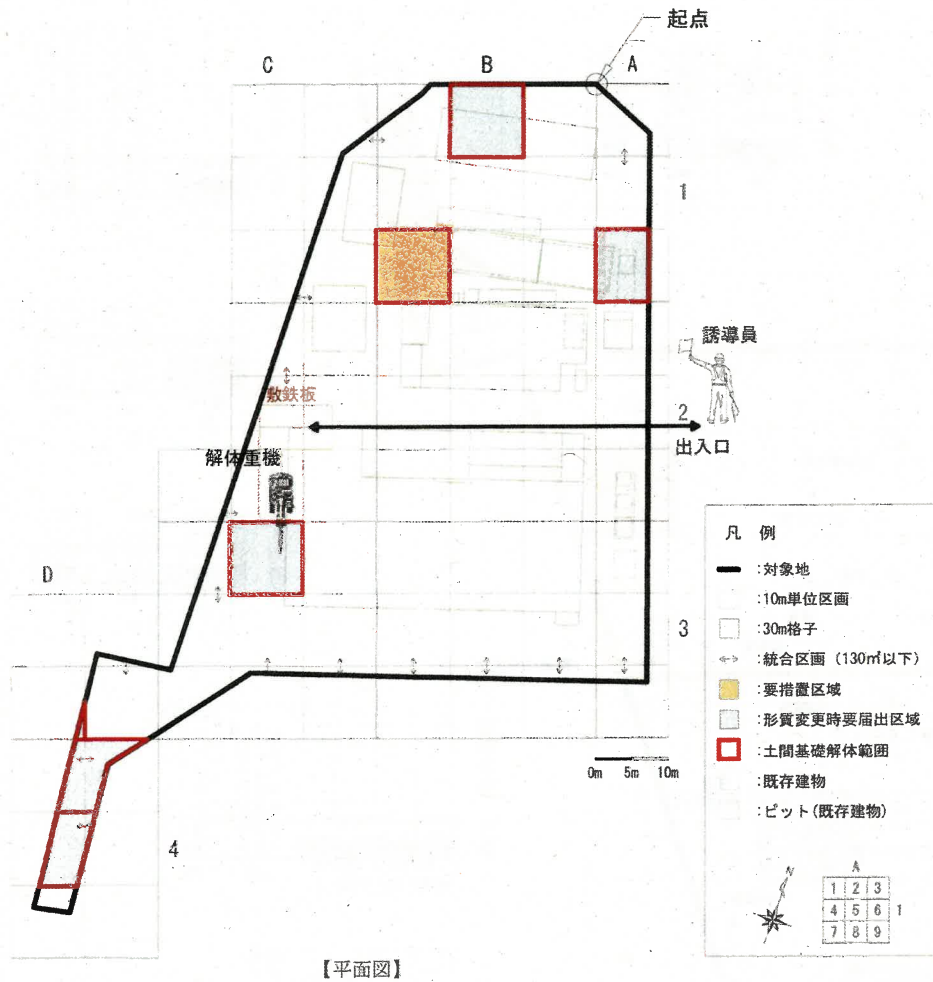
掘削・撤出範囲

掘削・撤出範囲

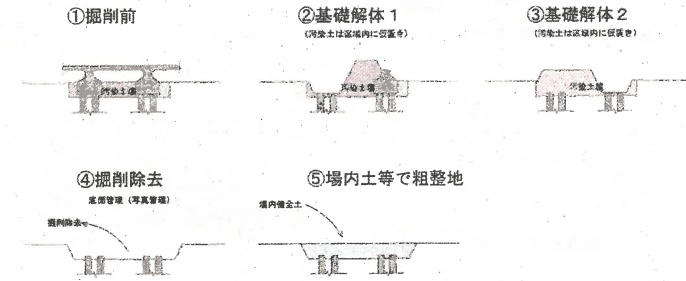
掘削・撤出範囲

添付書類5 施行方法を明らかにした平面図・断面図

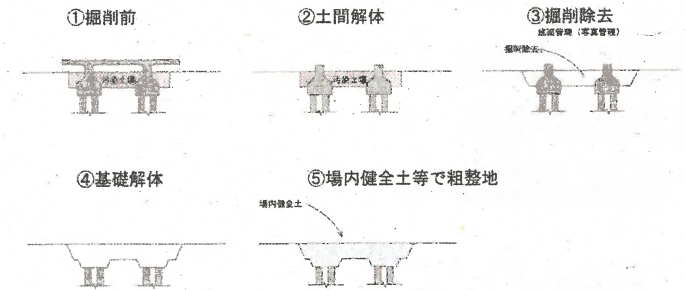
1. 土間基礎解体



全撤去（掘削除去）する区画において、解体対象物が汚染深度より浅い場合の手順



全撤去（掘削除去）する区画において、解体対象物が汚染深度より深い場合の手順



【断面図】

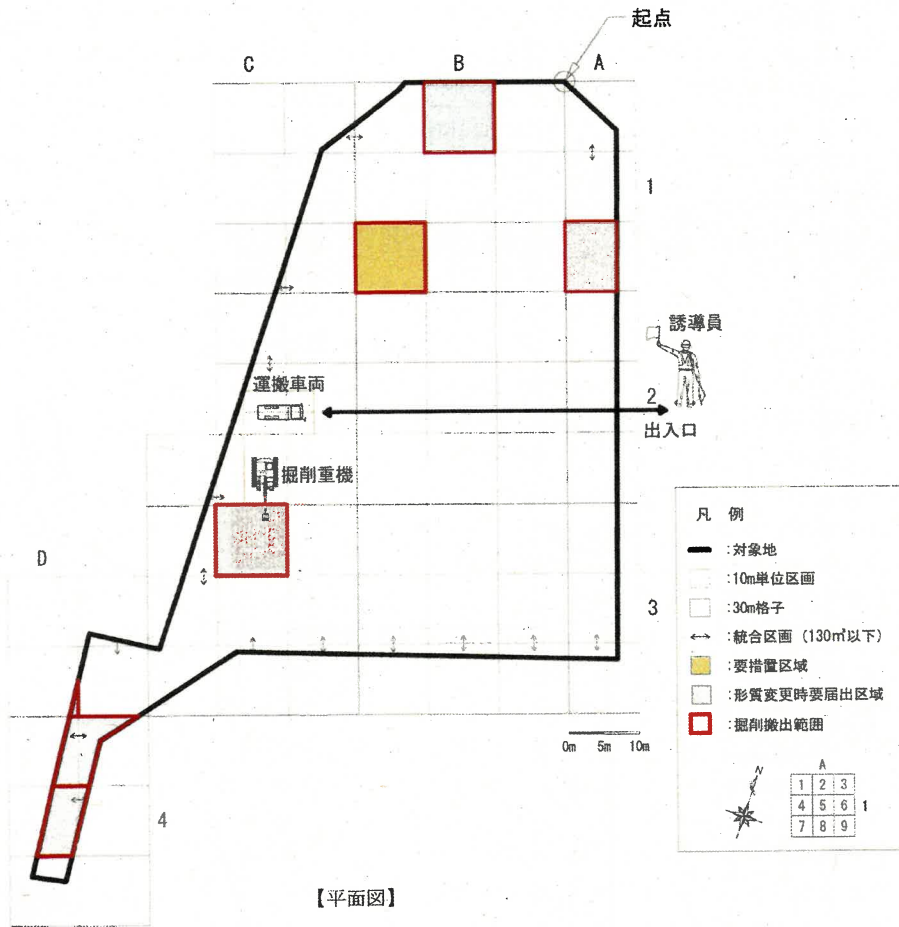
【施行方法】

- ①土間基礎解体に支障となる範囲の土壌を掘削する場合は、同一区画内に仮置きした。
- ②土間基礎撤去時は、汚染の拡散がないよう慎重に作業した (構造物に付着している土壌は拡散しないよう同一区画で払い落とした)。
- ③撤去した土間基礎は、産業廃棄物として適正に処理した。
- ④排水が必要な場合は、ノッチタンクに集水し、排水基準に適合することを確認し排水した。

【環境保全対策】

- ①土間基礎解体作業中、飛散の恐れがある場合は適宜散水及びシート養生を行った。
- ②仮置きした土壌が飛散のおそれがある場合は、適時散水及びシート養生を行った。
- ③撤去した構造物もしくは舗装版に土壌が付着している場合は、同一区画内で土壌を払い落とした。
- ④重機足元には汚染土壌拡散防止として、敷鉄板を敷設した。

2. 汚染土壌の掘削、埋戻し

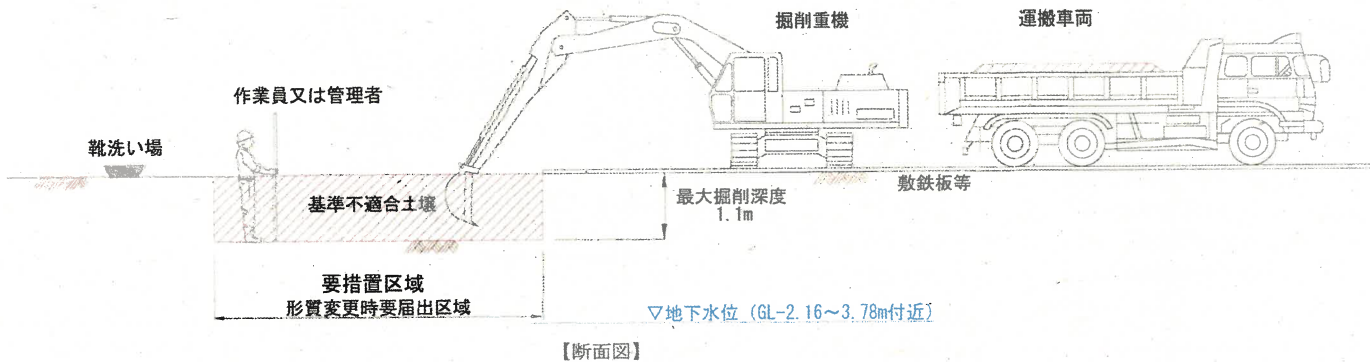


【施行内容】

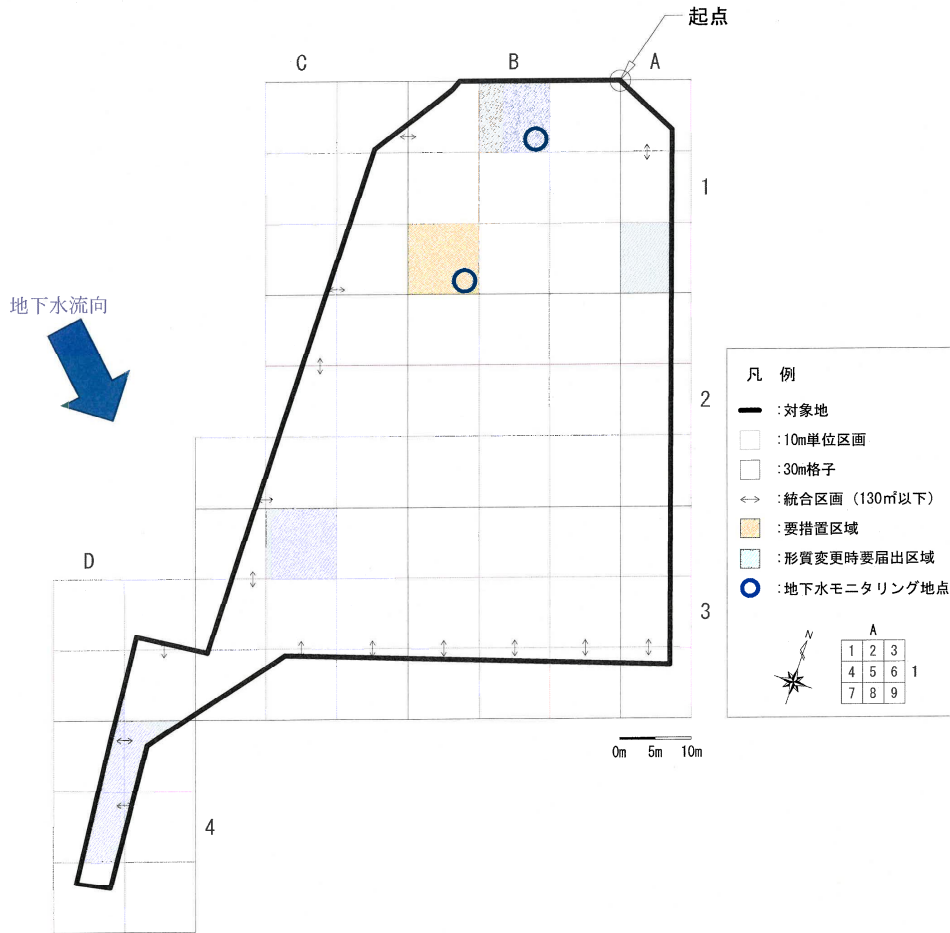
- ①汚染土壌を掘削し、ダンプトラックに直接積み込みを行った。
- ②完了確認は掘削範囲（幅）及び掘削深度（深さ）を測量、写真等により確認した。
- ③埋戻しは事前に法で定められている特定有害物質全 26 項目を分析し、基準に適合していることを確認した健全土を使用した。分析検体数は、「要措置区域外から搬入された土壌を使用する場合における当該土壌の特定有害物質による汚染状態の調査方法」（平成 31 年環境省告示第 6 号）による品質管理に基づいた。
- ④掘削は地下水に接しない深度であり、作業中は地下水・雨水等は確認されず雨水等の排水も不要であったため排水は行っていない。

【環境保全対策】

- ①区域指定の区画に立入った者は区画を出る際には靴底の土壌を払い落とし、汚染の拡散を防止した。
- ②汚染土壌の拡散を防止するため、散水設備、敷鉄板の設置、ダンプトラック周辺の養生シート、運搬時のシート養生を実施した。



3. 地下水モニタリング



【平面図】

○地下水モニタリング対象物質

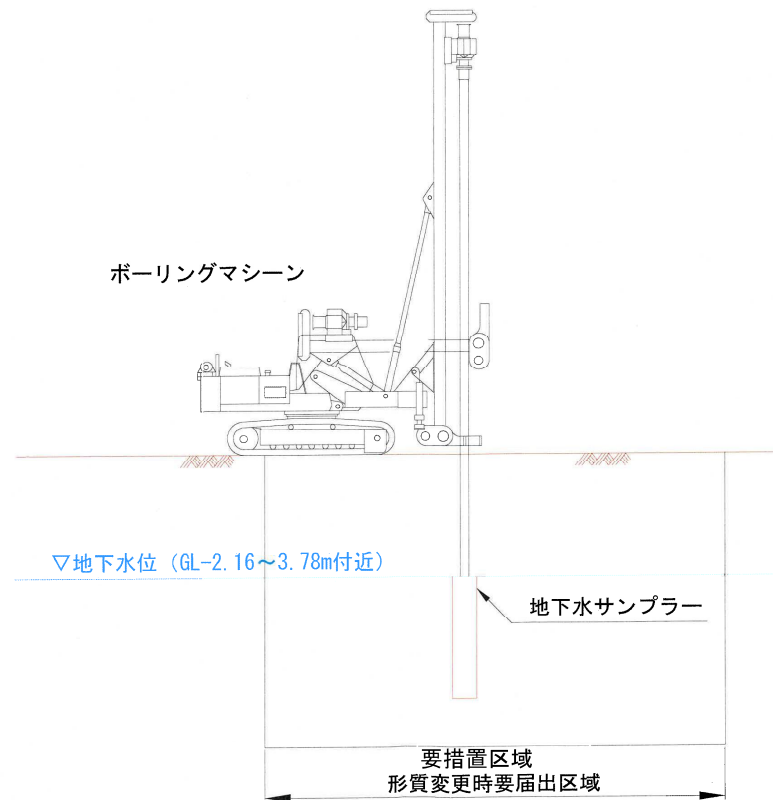
区画名	汚染物質名	地下水基準 (mg/L)	定量下限値 (mg/L)	分析結果 (mg/L)
B1-2	シアン	検出されないこと	0.1	<0.1
B1-7	シアン	検出されないこと	0.1	<0.1
	六価クロム	0.05 以下	0.005	<0.005

【施行方法】

- ①汚染土壌掘削及び埋め戻し完了後に土壌溶出量基準を超過している物質を対象に地下水モニタリングを1回を行い、掘削に伴う汚染拡散がないことを確認した。
- ②地下水採取方法等については、ガイドライン「Appendix-7.地下水試料採取方法」に従った。
- ③測定方法は、ガイドライン「Appendix-6.地下水に含まれる試料採取等対象物質の量の測定方法」に従った。

【環境保全対策】

- ①採取用のホースは区画ごとに使い捨てとし、コンタミネーションが起こらないようにした。
- ②バージ水は保管し、地下水の分析結果を確認後に適正に処分した。



【断面図】



濃度計量証明書

証明書番号 : QA22397720101DA

発行年月日 : 2023年6月7日

株式会社フィールド・パートナーズ 様

件名 : 栃木県矢板市馬町2丁目敷地における土壌汚染対策工事

株式会社 土壌環境リサーチーズ

〒266-0031 千葉県千葉市緑区おゆみ野五丁目44番地3

TEL:043-300-3318 FAX:043-300-3312

計量証明事業登録番号 千葉県知事登録第680号

計量管理者 (環境計量士)

氏名

御依頼のありました、試料についての計量結果を次の通り証明します。

試料名称	埋戻し土壌1	試料種別	土壌	
採取年月日及び時間	2023年6月1日			
試料採取者	当事業所受取	受取年月日	2023年6月2日	
【特記事項】試料及び試料採取に関する事項は、依頼者より提供のあった事項について記載しています。				
計量の対象	計量結果	単位	計量方法	定量下限値
クロロエチレン	<0.0002	mg/L	平成15年環境省告示第18号(平成9年環告第10号付表第2) ヘッドスペースガス加圧ガス質量分析法	0.0002
四塩化炭素	<0.0002	mg/L	平成15年環境省告示第18号(JIS K 0125 5.2.1) ヘッドスペースガス加圧ガス質量分析法	0.0002
1, 2-ジクロロエタン	<0.0004	mg/L	平成15年環境省告示第18号(JIS K 0125 5.2.1) ヘッドスペースガス加圧ガス質量分析法	0.0004
1, 1-ジクロロエチレン	<0.002	mg/L	平成15年環境省告示第18号(JIS K 0125 5.2.1) ヘッドスペースガス加圧ガス質量分析法	0.002
1, 2-ジクロロエチレン	<0.004	mg/L	平成15年環境省告示第18号(JIS K 0125 5.2.1) ヘッドスペースガス加圧ガス質量分析法(気体と液体の合計値)	0.004
1, 3-ジクロロプロパン	<0.0002	mg/L	平成15年環境省告示第18号(JIS K 0125 5.2.1) ヘッドスペースガス加圧ガス質量分析法(気体と液体の合計値)	0.0002
ジクロロメタン	<0.002	mg/L	平成15年環境省告示第18号(JIS K 0125 5.2.1) ヘッドスペースガス加圧ガス質量分析法	0.002
テトラクロロエチレン	<0.001	mg/L	平成15年環境省告示第18号(JIS K 0125 5.2.1) ヘッドスペースガス加圧ガス質量分析法	0.001
1, 1, 1-トリクロロエタン	<0.001	mg/L	平成15年環境省告示第18号(JIS K 0125 5.2.1) ヘッドスペースガス加圧ガス質量分析法	0.001
1, 1, 2-トリクロロエタン	<0.0006	mg/L	平成15年環境省告示第18号(JIS K 0125 5.2.1) ヘッドスペースガス加圧ガス質量分析法	0.0006
トリクロロエチレン	<0.001	mg/L	平成15年環境省告示第18号(JIS K 0125 5.2.1) ヘッドスペースガス加圧ガス質量分析法	0.001
ベンゼン	<0.001	mg/L	平成15年環境省告示第18号(JIS K 0125 5.2.1) ヘッドスペースガス加圧ガス質量分析法	0.001
カドミウム及びその化合物	<0.0003	mg/L	平成15年環境省告示第18号(JIS K 0102 55.4) ICP質量分析法(Cd換算)	0.0003
六価クロム化合物	<0.005	mg/L	平成15年環境省告示第18号(JIS K 0102 65.2.6) 流れ分析法(CrVI換算)	0.005
シアン化合物	<0.1	mg/L	平成15年環境省告示第18号(昭和46年環告第59号付表1) 流れ分析法(CN換算)	0.1
水銀及びその化合物	<0.0005	mg/L	平成15年環境省告示第18号(昭和46年環告第59号付表2) 還元酸化原子吸光法(Hg換算)	0.0005
アルキル水銀	<0.0005	mg/L	平成15年環境省告示第18号(昭和46年環告第59号付表3) メチル抽出ガス加圧ガス(ECD)法(Hg換算)	0.0005
セレン及びその化合物	<0.001	mg/L	平成15年環境省告示第18号(JIS K 0102 67.4) ICP質量分析法(Se換算)	0.001
鉛及びその化合物	<0.001	mg/L	平成15年環境省告示第18号(JIS K 0102 54.4) ICP質量分析法(Pb換算)	0.001
砒素及びその化合物	<0.001	mg/L	平成15年環境省告示第18号(JIS K 0102 61.4) ICP質量分析法(As換算)	0.001
ふっ素及びその化合物	<0.08	mg/L	平成15年環境省告示第18号(JIS K 0102 34.4) 流れ分析法(F換算)	0.08
ほう素及びその化合物	<0.1	mg/L	平成15年環境省告示第18号(JIS K 0102 47.4) ICP質量分析法(B換算)	0.1
シマジン	<0.0003	mg/L	平成15年環境省告示第18号(昭和46年環告第59号付表6第1) 固相抽出ガス加圧ガス質量分析法	0.0003
チオベンカルブ	<0.002	mg/L	平成15年環境省告示第18号(昭和46年環告第59号付表6第1) 固相抽出ガス加圧ガス質量分析法	0.002
チウラム	<0.0006	mg/L	平成15年環境省告示第18号(昭和46年環告第59号付表5) 固相抽出-高速液体加圧ガス法	0.0006
【備考】	計量完了年月日 : 2023年6月7日			

この計量証明書は計量法第110条の2第1項に基づいたもので、この証明書の一部分のみを複製し証明書として用いることはできません。

